

基本計画書

基本計画											
事項	記入欄							備考			
計画の区分	学部の設置										
フリガナ設置者	ガクコリョクジン ショウナンリアイクエン 学校法人 湘南ふれあい学園										
フリガナ大学の名称	ショウナンイリョクガク 湘南医療大学 (Shonan University of Medical Sciences)										
大学本部の位置	神奈川県横浜市戸塚区上品濃16番48号										
大学の目的	湘南医療大学は、教育基本法及び学校教育法と「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」の理念に基づき、高度な知識技術とともに、豊かな人間性を育み、創造的かつ実践的な教育研究を通じて、地域社会に貢献することを目的とする。										
新設学部等の目的	湘南医療大学薬学部は、医療人としての責任感、使命感、倫理観及び薬学の専門知識・技術を身につけ、患者や治療方法の多様なニーズに対応し、多職種協働によるチーム医療に積極的に参画できる薬剤師を養成し、地域社会はもとより、国際社会の発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。										
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地			
	薬学部 [Faculty of Pharmaceutical Sciences] 医療薬学科 [Department of Clinical Pharmacy]	6年	130人	—年次人	780人	学士(薬学) (Bachelor of Pharmacy)	令和3年4月 第1年次	神奈川県横浜市戸塚区上品濃16番10号			
	計		130	—	780						
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	なし										
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数					
	薬学部 医療薬学科	講義	演習	実験・実習	計	195 単位					
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等		
	新設分	薬学部 医療薬学科			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
		17人 (12)	10人 (5)	8人 (4)	8人 (1)	43人 (22)	1人 (1)	104人 (30)			
	計			17 (12)	10 (5)	8 (4)	8 (1)	43 (22)	1 (1)	— (—)	
	既設分	保健医療学部 看護学科			11 (11)	6 (6)	5 (5)	14 (14)	36 (36)	2 (2)	44 (44)
		リハビリテーション学科			12 (12)	2 (2)	6 (6)	4 (4)	24 (24)	0 (0)	31 (31)
計			23 (23)	8 (8)	11 (11)	18 (18)	60 (60)	2 (2)	— (—)		
合計			40 (35)	18 (13)	19 (15)	26 (19)	103 (82)	3 (3)	— (—)		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体				
	事 務 職 員		27 (20)	0 (0)	27 (20)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)	4 (4)	6 (6)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	3 (3)	3 (3)					
	計		29 (22)	7 (7)	36 (29)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	湘南医療大学保健医療学部（必要面積6,600㎡）と共用 自己所有面積：26830.02㎡ 借用面積：28288.78㎡ 校舎敷地 6,629.41㎡ 運動場用地 1,252.57㎡				
	校 舎 敷 地	53,866.23 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	53,866.23 ㎡					
	運 動 場 用 地	1,252.57 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	1,252.57 ㎡					
	小 計	55,118.80 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	55,118.80 ㎡					
	そ の 他（ 菓 草 園 ）	400.00 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	400.00 ㎡					
	合 計	55,518.80 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	55,518.80 ㎡					
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	湘南医療大学保健医療学部（必要面積6,753㎡）と共用 ①借用面積：699.70㎡ ①借用期間：平成27年4月から20年 ②借用面積：1,026.05㎡ ②借用期間：平成31年4月から20年 大学院専用 51.31㎡ ③借用面積：11,134.27㎡ ③借用期間：令和3年4月から30年間					
	26,805.46 ㎡ (22,728.85 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	26,805.46 ㎡ (22,728.85 ㎡)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 ※1室は、講義室3と共用				
	32 室	26 室	27 室	※2 室 (補助職員 人)	0 室 (補助職員 人)					
専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		複数人利用の共同研究室含む				
	薬学部医療薬学科			33 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位で特定不能なため、大学共用分（学部と研究科）の合計数 電子ジャーナル 37,825タイトル 3,805誌 閲覧可		
	薬学部医療薬学科	19,462 [1,236] (19,462 [1,236])	269 [47] (269 [47])	12 [7] (12 [7])	582 (582)	21,360 (17,699)	58 (58)			
	計	19,462 [1,236] (19,462 [1,236])	269 [47] (269 [47])	12 [7] (12 [7])	582 (582)	21,360 (17,699)	58 (58)			
図書館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
	803.48 ㎡		274 席		27,140 冊					
体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
	637.07 ㎡		-							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体 大学全体：図書購入費は、電子ジャーナル、データベースを含む 大学全体
		教員1人当り研究費等		450千円	450千円	450千円	450千円	450千円	450千円	
		共同研究費等		4,000千円	4,000千円	4,000千円	4,000千円	4,000千円	4,000千円	
		図書購入費	14,140千円	11,670千円	20,000千円	20,000千円	20,000千円	20,000千円	20,000千円	
	設備購入費	1,031,842千円	605,074千円	20,000千円	20,000千円	20,000千円	20,000千円	20,000千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	2,280千円	1,950千円	1,950千円	1,950千円	1,950千円	1,950千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			寄附金収入、補助金収入、雑収入等							

大 学 の 名 称	湘南医療大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
既設大学等の状況	保健医療学部	4年	160人	3年次 10人	660人	—	1.07		神奈川県横浜市戸塚区上品濃16番48号
	看護学科	4	80	3年次 10	320	学士（看護学）	1.08	平成27年度	
	リハビリテーション学科	4	80	—	320	—	1.06		
	理学療法学専攻	4	40	—	160	学士（理学療法学）	1.08	平成27年度	
	作業療法学専攻	4	40	—	160	学士（作業療法学）	1.04	平成26年度	
	保健医療学研究科	2	12	—	24	修士（保健医療学）	0.92	平成31年度	
	保健医療学専攻								
	[助産師国家試験受験資格取得者]		[4]		[8]				
附属施設の概要	<p>名称：湘南医療大学臨床医学研究所 目的：様々な分野の疾病の臨床研究並びに臨床医学教育システムに関する調査研究 所在地：神奈川県茅ヶ崎市西久保大字町122番地1 他（湘南東部総合病院西館1階） 設置年月：平成30年4月 規模等：面積176.38㎡</p> <p>名称：湘南医療大学薬学部附属薬草園 目的：薬学部における教育・研究の資料とする 所在地：薬草園（学内）横浜市戸塚区上品濃 設置年月：令和4年3月 規模：面積400㎡</p>								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の場合、収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要														
(薬学部 医療薬学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	総合英語ⅠA	1前	1				○			1				兼2
	総合英語ⅠB	1後	1				○			1				兼2
	総合英語ⅡA	2前	1				○			1				兼2
	総合英語ⅡB	2後	1				○			1				兼2
	総合英語Ⅲ	5前・後 ・6前	1				○			1				兼1
	英会話A	3前	1				○			1				兼1
	英会話B	3後	1				○			1				兼1
	英語Ⅰ（基礎英語）	1前		1			○							兼1
	英語Ⅱ（医療英語）	2前		1			○							兼1
	英語Ⅲ（コミュニケーション）	2後		1			○							兼1
	中国語	1前		1			○							兼1
	韓国語	1後		1			○							兼1
	コミュニケーション論	1前	1			○								兼1
	チーム医療論	6後	1				○		17	9	8	8	0	兼62 オムニバス・共同（一部）
人間と文化	文学	1・2・3前		1		○								兼1
	教育学	1・2・3後		1		○								兼1
	文化人類学	1・2・3前		1		○								兼1
	国際関係論	1・2・3前		1		○								兼1
	国際保健医療論	1・2・3後		1		○								兼1
	音楽論	1・2・3後		1		○								兼1
人間と健康	栄養学	1前		2		○								兼1
	薬と毒性学入門	1後		1		○		1						兼1
	障害者スポーツ	1前・後		1			○							兼1
	レクリエーションスポーツ	1前・後		1			○							兼1
	症候論	1後	2			○		2						兼5 オムニバス *演習
社会福祉論	2後	1			○								兼1	
人間と情報	情報リテラシー	1前		1			○							兼1
	研究法入門	1後	2			○								兼1
人間と環境	環境論	1前		1		○								兼1
	法学（含日本国憲法）	1前		2		○								兼1
	放射線概論	1後		1		○								兼1
	保健行政論	2前		1		○						1		兼1
	公衆衛生学	2前		1		○			1		1			兼1 オムニバス
人間の本质と尊厳	倫理学	1前		1		○								兼1
	心理学	1前		2		○								兼1
	哲学	1後		1		○								兼1
	社会学	1後		2		○								兼1
	発達心理学	1後		1		○								兼1
	ボランティア学	1後		1		○								兼1
	生命倫理学	1後		1		○								兼1
	ジェンダー論	1後	1			○								兼1
小計（41科目）	—	15	32	0	—	—	—	17	10	8	8	0	兼85	
基礎科目	専門基礎	科学計算演習	1前	1			○		1		1			共同
	科学英語	4前	1				○			1				兼1
	小計（2科目）	—	2	0	0	—	—	1	1	1	0	0	兼1	

医療薬学	薬理学Ⅰ	2後	2			○			1		1						オムニバス
	薬理学Ⅱ	3前	2			○			1	1	1						オムニバス
	薬物治療学Ⅰ	3前	2			○			1		1						オムニバス
	薬理学実習	3前	1					○	1		1	1					オムニバス・共同 (一部)
	薬物動態学Ⅰ	3前	2			○				1							*演習
	薬剤学Ⅰ	3前	2			○				2							オムニバス
	薬物治療学Ⅱ	3後	2			○			2								オムニバス
	薬物動態学Ⅱ	3後	2			○				2							オムニバス *演習
	薬剤学Ⅱ	3後	2			○				2							オムニバス
	病理学概論	4前	2			○			2								兼7 オムニバス
	症候・診断学	4前	2			○			1								兼4 オムニバス *演習
	処方解析演習	4前	1					○	9	5	3	4					共同
	薬物治療学Ⅲ	4前	2			○			1		1						オムニバス
	医薬品開発学	4前	2			○			1								
	医療安全管理	4前	1			○			1								
	創薬化学	4・6前		1		○			1		1						オムニバス
	医薬品情報学	4後	2			○			1								*演習
	薬物治療学Ⅳ	4後	2			○			3								オムニバス
	薬物治療学Ⅴ	4後	2			○			4		2	1					兼1 オムニバス
	漢方治療学	6前	2			○											
	レギュラトリーサイエンス	6前	2			○			1								
	薬物治療学Ⅵ	6後	2			○			3								オムニバス
小計 (22科目)	—	39	1	0	—	—	—	11	6	5	4	0	兼9				
薬学臨床	医療薬学チュートリアル演習Ⅰ	2前	1			○		8	3	3	2						共同
	調剤学	3後	1			○		1	1	1							オムニバス
	実務実習事前学習Ⅰ	3後	1					7	5	4	4						共同
	看護論	3後	1			○											兼1
	総合リハビリテーション論	3後	1			○											兼1
	実務実習事前学習Ⅱ	4前	2					7	5	4	4						共同
	医療薬学チュートリアル演習Ⅱ	4前	1					1		2							兼1 オムニバス・共同 (一部)
	臨床栄養学	4前	1			○		1									兼1 オムニバス
	実務実習事前学習Ⅲ	4後	2		1			7	5	4	4						共同
	コミュニティーファーマシー	4後	1			○			1								
	ファーマシーマネジメント論	4・6前		1		○											兼1
	薬局実務実習	5通	10					6	5	4	4						共同
	病院実務実習	5通	10					8	4	4	5						共同
	地域包括医療論(在宅医療を含む)	6前	1			○				1							
セルフメディケーション	6前	1			○				1								
老年学	6前	1			○											兼1	
小計 (16科目)	—	35	2	0	—	—	17	9	8	8	0	兼6					
薬学研究	薬学総合プレ研究	3通～4前	2					17	9	8	8	1					オムニバス・共同
	卒業研究Ⅰ (課題解決型薬学研究・基礎と応用)	4後～5通	12					17	9	8	8	1					オムニバス・共同
	卒業研究Ⅱ (課題解決型薬学研究・発展)	6前	4					17	9	8	8	1					オムニバス・共同
	総合演習Ⅰ	6前	2			○		7	5	4	4	1					兼1 オムニバス・共同 (一部)
	総合演習Ⅱ	6後	2			○		8	4	4	4						オムニバス・共同 (一部)
	インターンシップ実習 (課題解決型薬学研究・展開)	4・5・6通		1				1									
小計 (6科目)	—	22	0	1	—	—	17	9	8	8	1	兼1					
合計 (140科目)		—	186	40	1	—	—	17	10	8	8	1	兼104				
学位又は称号		学士 (薬学)			学位又は学科の分野			薬学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
卒業要件は、総合教育科目では21単位以上 (必修科目15単位及び選択科目6単位以上)、基礎科目は必修科目2単位、専門科目は172単位以上 (必修科目169単位、選択科目3単位以上) を履修し、合計195単位以上を取得していること。							1学年の学期区分			2期							
							1学期の授業期間			15週							
							1時限の授業時間			90分							

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間とコミュニケーション 総合教育科目	総合英語 I A	将来の仕事や研究活動で使うことのできる英語の基礎を学ぶ。薬学の領域を広く知ることができるとともに、日常生活に使われる口語表現の習得も目指す。さらに、薬剤師や薬学研究者等として専門の分野に携わる際に役立つ医療・薬学系の英語資料の読み方や口語表現を習得し、自らの考えを発信するための英語力を向上させることを目標とする。	
	総合英語 I B	「総合英語IA」で得た知識をもとに、さらなる知識の向上を目指す。将来の仕事や研究活動で使うことのできる英語の基礎を学ぶ。薬学の領域を広く知ることができるとともに、日常生活に使われる口語表現の習得も目指す。さらに、薬剤師や薬学研究者等として専門の分野に携わる際に役立つ医療・薬学系の英語資料の読み方や口語表現を習得し、自らの考えを発信することのできる英語力を向上させることを目標とする。	
	総合英語 II A	医療・薬学・生命科学の各分野の英語の著述を読み、正確な理解ができるようにする。将来、薬剤師、薬学研究者、医療従事者としての仕事で実際に必要となる口語および文章に使用される専門的な用語や表現に慣れるとともに、その理解を深める。医療や薬学に関する実験や医薬品の説明に関する英文や英語表現を学習し、さらに自らの考えを英語で発信することのできる英語力を身に付けることを目指す。また、医療の場におけるコミュニケーション能力の向上を目指す。	
	総合英語 II B	「総合英語IIA」で得た知識をもとに、さらに知識の向上を目指す。医療・薬学の各分野の英語の著述を読み、正確な理解ができるようにする。将来、薬剤師、薬学研究者、医療従事者としての仕事で実際に必要となる口語および文章に使用される専門的な用語や表現に慣れるとともに、その理解を深める。医療や薬学に関する実験や操作の説明に関する英文や英語表現を学習し、さらに自らの考えを英語で発信する英語力を身に付けることを目指す。また、医療の場におけるコミュニケーション能力の向上を目指す。	
	総合英語 III	「総合英語 I」および「総合英語 II」等の英語学習の中で培われた英語力を確認しながら、バランスの取れた英語の4技能(読む・書く・聞く・話す)のさらなる向上を目指す。医療・薬学の各分野に関する英文資料の正確な理解ができるようにすることで、将来的に仕事や研究において必要となる知識や情報を得るための準備をする。同時に、そうした専門分野において、自分の意見を英語で発信すること、自分の考えを口頭で発表することのできる英語力を身に付けることを目指す。	
	英会話A	グローバル化により外国人患者が薬局やドラッグストアに来店することは珍しいことではなくなり、薬剤師が英語での対応を必要とする場面が増えている。こうした現状において、薬剤師はわかりやすい英語で患者とのコミュニケーションを行うことが求められる。本授業では、必要な情報を簡潔かつ適切に説明するために実際の仕事の場で必要となる英語表現を習得することを目指す。さらに、単なる日常的な英会話に終始するのではなく、簡単なプレゼンテーションを英語で行える英語力の習得を目指す。	
	英会話B	「英会話A」で得た知識や英語力を基礎において、さらなる英語力の向上を目指す。日常生活のみならず医療の現場において必要とされる英語の会話表現に習熟する。さらに、英語で自分の意見を相手に明確に伝える英語力の向上を目的とする。単なる日常的な英会話に終始するのではなく、実社会で有効に使用し得る英語のコミュニケーション力を高め、将来の研究や実務につながる応用力を身に付ける。それに加え、簡単なプレゼンテーションを英語で行える英語力の習得も視野に入れて学習する。	

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	人間とコミュニケーション	英語Ⅰ (基礎英語)	高等学校で学んだ基本的事項を確認しながら、さらに高度な英文の文化に触れるとともに、まとまりのある文章の概念や要点をできるだけ速く、多く読み取るという高度な読解力を養い、目的に応じた読みを可能にすることを目的として学習する。	
		英語Ⅱ (医療英語)	医学英語の知識をつけ、医療専門家としてのコミュニケーションの基礎(読み・書き)を身に付ける。医療に関わる基本用語(英語・英語表現)を修得する。	
		英語Ⅲ (コミュニケーション)	医療の臨床実践に必要な用語や表現、外国人患者と接する際に必要な英語や心構え、医療従事者間での英語によるコミュニケーションについて学ぶ。	
		中国語	中国語の独特な発音を重視し、簡単な表現を身に付けることを目指す。講義形式を基本とし、教材の内容に沿って、実践的な会話演習も行う。また、視聴覚資料を使い、中国、中国文化を紹介する。中国語の勉強を通して、中国の文化、風土、人情などの理解を深めること、中国語で自己紹介できることを目標とする。	
		韓国語	15回の授業で韓国語の文字と基本的な発音を習得し、日常会話を身につけることを目標とする。基本的なあいさつ表現、基礎語彙、基本的な助詞や、用言においては指定詞を学ぶ。自己紹介の表現をはじめ、日本語との対照的な観点から実践的に表現を獲得する。丁寧な文体합니체, 해요체를学ぶ。「読む」「書く」「話す」「聴く」の4つの技能のうち「読む」、「書く」技能を中心に学習する。	
	コミュニケーション論	ケアや社会福祉援助ではつねに人と人との関係性のあり方が問題となる。人間の存在と人間関係、社会的相互作用と社会的役割の理解の上に、医療を受ける人々を一人の人間として、心から大切にしようとする「誠実さ」と、それに支えられた「出会い」によって、対話が成立し、医療を受ける対象およびその家族の理解が充実発展でき、より良い関係を築く基礎を学習する。具体的にはコミュニケーションの理論を学び、エクササイズを重ねることでより良いコミュニケーションの基礎を身につける。		

授 業 科 目 の 概 要

（湘南医療大学薬学部医療薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間とコミュニケーション 総合教育科目	チーム医療論	<p>（概要）チーム医療において、様々な医療専門職種が最善の医療を目指して情報を共有し、連携・協力する患者中心の医療を提供することが求められる。本講義では、まずチーム医療の概論と実習の進め方について学習し、続いて、薬学部医療薬学科、保健医療学部看護学科、リハビリ学科の全学生が混合でチームを形成し、チュートリアル方式で2事例を議論する。その後、グループ発表に向けて、まとめの時間を与え、最後に各グループが演習成果を発表し、参加した学生及び教員全員がそれを評価する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（59 寺本明／1回）</p> <p>チーム医療の概論と演習方法について講義を行う。</p> <p>（薬学部教員：①鈴木勉・②石川吉伸・③石橋芳雄・④木村聡一郎・⑤栗原正明・⑥坂本芳雄・⑦塩田清二・⑧定本清美・⑨高橋央宜・⑩東山公男・⑪船田正彦・⑫古屋博行・⑬若山恵・⑭石田洋一・⑮市川智恵・⑯片川和明・⑰加藤英明・⑱佐野和美・⑲山崎泰広・⑳池上大悟・㉑市丸嘉・㉒加藤統一・㉓殿山泰弘・㉔中楯奨・㉕宇津美秋・㉖江川大地・㉗進藤綾大・㉘須藤遥・㉙曾川甲子郎・㉚加賀谷肇・㉛加藤裕久・㉜国分秀也・㉝佐藤淳也・㉞小野塚真理・㉟竹内尚子・㊱寺島朝子・㊲荒井幸子・㊳尾関あゆみ・㊴細谷龍一郎・㊵浦裕之・㊶沖崎（松元）歩・㊷田中怜</p> <p>保健医療学部教員：㊸石川福江・㊹生田宗博・㊺牛田（上野）貴子・㊻大澤千恵子・㊼大森圭貢・㊽片山典子・㊾加藤尚美・㊿川本利恵子・㉑喜多村健・㉒小林和彦・㉓小林紀明・㉔坂上昇・㉕島田啓子・㉖鈴木雄介・㉗田島明子・㉘田邊浩文・㉙鶴見隆彦・㉚鶴見隆正・㉛寺本明・㉜長澤弘・㉝羽生貞観・㉞東館雅文・㉟望月聡一郎・㊱齊藤（加藤）琴子・㊲櫻井好美・㊳澤井美奈子・㊴塩田美佐代・㊵高島有理子・㊶土師しのぶ・㊷森尾裕志・㊸渡邊知佳子・㊹菊地有紀・㊺草野明・㊻久保田清子・㊼櫻井友子・㊽須鎌康介・㊾鈴木秀樹・㊿陶山克洋・㉑中尾陽光・㉒三川年正・㉓金光正官・㉔矢萩美幸・㉕山崎真帆・㉖網谷奈央・㉗石橋史子・㉘市川砂織・㉙伊東春美・㉚稲垣尚美・㉛大胡晴香・㉜岡多恵・㉝倉橋悠子・㉞黒田由香里・㉟後藤光世・㊱下田栄次・㊲高橋真由美・㊳玉田聡史・㊴塚原ゆかり・㊵土田将之・㊶鶴見薫・㊷中村壽志・㊸西野由希子・㊹山田艶子／14回）（共同）</p> <p>演習の準備、SGDによる討論および発表に関わる学生指導および評価を行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	文学 教育学 文化人類学	<p>文学の概念と日本の代表的な韻文を中心に学習する。様々な形態の韻文を味わいながら、文学的価値を学習することを通じて、時代背景や個々の文学の特徴を捉えるとともに、そこから日本の伝統、言葉のリズム、日本人の美意識について理解するとともに文学の基礎的な力、感性を養い、その過程で表現する能力を身に付けるよう学習する。</p> <p>教育学の基本的な理念や教育の現状・課題を学び、自らの問題として考察する。次の3分野の理解を目標とする。①教育と教育学の原理・現代的課題、②学校教育・義務教育、教職員の制度、③社会教育・生涯学習振興行政や福祉等の関連行政。具体的には人間の成長と教育の意義、教育の目的、家庭教育、生涯学習支援の社会教育、学校教育の制度、学習指導、生活指導と教育評価および特別支援教育等の歴史的特質と課題を講義する。</p> <p>我々人間が無意識のうちに認識し実践している文化は、社会によって極めて多様であり、ある社会にとっての常識が別の社会ではそうではないことがめづらしくない。文化人類学とは、そのような文化の多様性を認識しつつ、共通の理解が可能な普遍性も求めていく学問である。授業では、毎回一定のテーマに沿って様々な文化的事象の解説と事例研究を行い、文化相対主義的な考え方を学ぶ。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	人間と文化	国際関係論	国際関係論の理論的背景、国際問題を理解する上で必要な基本的な諸概念について学習する。国際社会の枠組み、歴史的経緯を知る。国際社会の政治的対立、紛争・テロの状況を理解し、さらに21世紀の地球規模の諸問題、人口、食糧、エネルギー、水、環境、貧困・格差等21世紀の課題について掘り下げ、その中で国際社会はどのように対応しているか、さらに主要国が国益をかけて繰り広げている厳しい外交戦略・対策を学習する。また前述の課題については国際社会の動向に加え、日本国内の状況についても国際的視点から理解を深める。	
	国際保健医療論	「グローバル化」が進行する背景、それが保健医療領域にもたらす影響と課題、及びその解決に向けた様々な取組みについて概観する。併せて、国際協力と関連国際機関・組織、世界の開発目標等について、基本的事項を学習する。これらを通じて、広く世界の健康課題に対する関心を高め、その多様性と普遍性を知るとともに、「世界」と「世界への貢献」を意識しながら日々の学習や将来の職業生活に臨むことを目指す。		
	音楽論	芸術領域である音楽を広く理解し、特に人々の健康のために音楽を活用する「音楽療法」の知見を学ぶ。具体的には、音楽が持つ働き(生理的、心理的、社会的働き)を学修し、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質向上等にむけて音楽を意図的・計画的に用いて支援する具体的な方法の基礎を学修する。授業の到達目標は以下のとおりである。1. 音楽の持つ3つの働きを広い観点から説明できる。2. 音楽療法の基本的な原理と考え方を説明できる。3. 対象者のニーズに合わせてどのように音楽の持つ働きを活用するのか説明できる。		
	栄養学	生命を維持し、成長、生活活動が続けていくために必要な食物と栄養について、栄養学の側面から学ぶ。また、今日の食生活の現状と栄養問題である生活習慣病や若年女性、傷病者・高齢者にみられる低栄養障害者の治療や健康回復、健康維持および健康増進、疾病予防についてその基礎を学習する。		
	薬と毒性学入門	毒の基本として毒の分類と毒を薬として活かすことを示す。まず、毒の分類と身近にある危険な毒について、毒の吸収と発症・解毒メカニズムを示す。次に、薬の原料、分類と作用メカニズムについて、また人間を虜にする麻薬について解説する。さらに、自然界の毒として植物から動物や海洋生物まで、毒と社会として化学兵器から公害や環境ホルモンまで示す。そして、毒と薬を求めた世界の人々を紹介し、最後に毒と薬の事件ファイルを示す。		
	人間と健康	障害者スポーツ	この授業は座学と実技から構成される。座学では、「しょうがい」の臨床像をはじめ、障がい者スポーツの歴史やパラリンピックを含む国内外で行われている障がい者スポーツの競技とそのルールについて説明を行うと共に、生涯スポーツ社会を実現するためのスポーツ参画と障がい者スポーツ、そして共生社会の考え方について学習する。実技では、座学で学習した内容を基に、実際に障がい者スポーツに触れ、楽しさを体験する。	
レクリエーションスポーツ	年代、体力、障害等を考慮した身体運動の必要性及び指導上の注意事項に関する基礎的知識を理解する。高齢者を対象としたQOLを高めるための測定、体操、各種ニュースポーツの基礎的能力を身につける。 到達目標 1) 身体運動の必要性及び重要性について理解し、説明できる。 2) 対象者の状態に合わせたレクリエーションの計画立案と安全を留意した運動支援ができる。 3) 対象者が楽しく参加できる身体運動を支援するためのコミュニケーション能力を養う。			

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	人間と健康 症候論	(概要) 患者の訴える様々な症状を理解し、疾患の概念、病態の成立機序と鑑別診断を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (④ 坂本芳雄/8回) カルテの書き方、浮腫・黄疸、咳・痰、呼吸困難、胸痛、動悸に関する基本的事項について講義を行う。 (⑥ 定本清美/1回) 発熱に関する基本的事項について講義を行う。 (59 寺本明/2回) 頭痛・意識障害、麻痺(脳神経・中枢神経・末梢神経障害)に関する基本的事項について講義を行う。 (50 喜多村健/1回) 眩暈・耳鳴りに関する基本的事項について講義を行う。 (137 田口秀明/1回) 睡眠障害・不眠に関する基本的事項について講義を行う。 (130 緑川武正/1回) 腹痛・下血・吐血・便通異常に関する基本的事項について講義を行う。 (134 開田恵理子/1回) 皮疹に関する基本的事項について講義を行う。	オムニバス方式 講義26時間 演習4時間
	社会福祉論	講義形式を基本に必要なに応じてグループディスカッションやワークを行う。まず、現代社会の特徴を人口動態データや社会問題から理解し、社会福祉の理念、思想、概要、現代に至るまでの変遷を学び、次に社会保障制度と社会福祉を担う組織について身近な事例を参考にしながら理解する。社会福祉を担う人々の仕事についてはDVD視聴より体感する。後半は各福祉領域別制度、サービス、多職種連携について学ぶ。	
	人間と情報 情報リテラシー	学習においてコンピュータを有効に活用するための能力(コンピュータリテラシー)を身につける。現代社会における情報と、ICT(Information and Communication Technology)の意義について理解し、情報を収集・活用していくための方法と技術を修得する事を目的とする。	
人間と情報 研究法入門	科学技術の発展に伴い研究手法、アプローチは多様化している。また、学際的研究や産学連携による実用化研究が加速している。そのため、高度医療従事者の育成には卒前から研究に関する視点、知識を養う必要がある。研究立案(クリニカルクエスト、論文検索、研究デザイン、倫理指針・法律、統計、研究計画書)、競争資金獲得から成果公表(論文、特許)に至るまでのプロセスに必要な基礎知識を事例、演習をもとに身に付ける。		
人間と環境 環境論	持続可能な社会を未来に向けて構築していくためには、地球を構成する海や陸や大気についてと生物間の関わりを正しく理解したうえで、人間の生存基盤としての食料やエネルギーの見方を身に付け、過去の環境破壊の原因をとらえる必要がある。そこで本科目では、水圏や陸圏や気圏の仕組みと生物間関係の基礎を理解し、人間が食料やエネルギーを得ている原理を学ぶ。次いで、それら自然の仕組みを人間が崩した環境問題の例を紹介する。そして、環境問題や環境教育に関する世界や国内の動向を学び、持続可能な社会づくりに向けた取り組みを考える。		

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	人間と環境	法学(含日本国憲法)	法が存在する意義から、憲法を始めとした民法・労働法・医事法などの成り立ちや役割を考察することで、法律は身近なものであり、生活に密着しているということを理解するとともに、法律学的事象の考え方(法的思考)を身に付けることができるよう、実際にどのように法が適用されるのかを判例を用いながら学修する。	
		放射線概論	臨床現場で必要とされる放射線の知識および放射線治療総論、放射線による障害と防護や放射線の身体への影響について学習する。さらに放射線画像の基礎を学習する。また、発がんへの心理的・社会的問題についても学ぶ。	
		保健行政論	保健医療領域の法制度、行政組織について学習する。自然科学科目とは異なり、現実社会の仕組みについて扱うため現行の社会保障政策について参照しながら学習する。	
		公衆衛生学	(概要) 人々の健康増進、公衆衛生の重要性を理解し、その向上に貢献できるような薬剤師になるために、現代社会における疾病とその予防、栄養と健康に関する基本的な知識を修得する。人々の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する目的で、保健統計と疫学に関する基本的事項を学修する。また、健康の意味を理解するとともに、疾病の原因を把握して、その予防に貢献できるようになるために、感染症、生活習慣病、職業病などについての現状とその予防に関する基本的事項を学修する。 (オムニバス方式/全8回) (12 加藤英明/6回) 公衆衛生概論、健康と疾患の概念、保健統計、疫学、感染症の疫学と予防に関する講義を担当する。 (29 曾川甲子郎/2回) 生活習慣病の疫学と予防、母子・学校保健、老人・産業保健に関する講義を担当する。	オムニバス方式
	人間の本质と尊厳	倫理学	倫理の起源や成立背景などを明らかにし、倫理の意義と医療における重要性について学修する。また、倫理的価値判断としての善悪について、義務論や功利主義、徳倫理学やケアの倫理などの主要学説をそれぞれ学ぶことによって、臨床現場で役立つような善悪に関する多様な視点を獲得することを目的とする。さらに、「いのち」の尊厳についても取り上げ、医療者としての心を養い、その自覚を促す。	
		心理学	心理学は、人間の行動の法則性に関する科学である。本教科では、知覚、欲求、思考、学習、人格、カウンセリングなどの心理学の基礎から、発達心理・医療と心理学について学習する。さらに、錯覚、記憶、学習、集団心理、性格検査、知能検査等についても学習する。	
		哲学	文明の発祥から現代に至るまでの東西を問わず先人の哲学思想を通して、人間とは何か、生きるとは何かについて思索する。「哲学を学ぶことの意義、科学と宗教と哲学、私であるということ、物質と生命の神秘、身体と精神、自由、および美しく善く生きること」等の学習内容を通して、「生きること」や「存在の意味」について、主体的に深く思索する姿勢と建設的批判力を身に付け、自己の人間観や世界観を醸成できることを目的とし、幅広く人間を理解する能力を養う。なお、「臨床哲学」という最前線の議論を紹介し、「薬物依存」からの回復を折に触れて検討する。	

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	人間の 本質と 尊厳	社会学	社会学の特徴は、人間とはなにか、社会とはなにか、常にその原点に遡って考え、「現代」という時代の全体を実証的にとらえようとするところにある。この授業では、私たちが生きている現代社会がどのような社会なのかを社会学の見方を通して理解することを目指す。また、人が社会の中で関係性の中で生きていることを認識する。社会的行為、社会的集団、地位と役割、社会変動、文化などの社会学の基本概念を理解するとともに身近な社会現象である家族や職場、地域社会、健康問題、福祉問題など、現実の社会や社会問題がどのように分析され、理解されているかを学習する。さらに社会的・文化的性差である「ジェンダー」が私たちの社会・文化のなかでどのように現れているかを学ぶ。	
		発達心理学	人間の一生という全行程を発達のプロセス、すなわち人は発達し続ける存在としてとらえ、人間への深い理解と愛情を育むことができるように、心身の発達、発達課題と諸問題について学習する。具体的には、社会的存在としての人びとの生涯的な発達過程を主としてライフコース論の視点から整理し、社会の変動と人びとの人生コースとの関連について学習する。	
		ボランティア学	少子高齢化や地方自治の深化に伴い、市民の自発的な活動(ボランティア活動)に対する期待や関心が高まっている。その領域は、従来の福祉や国際協力だけでなく環境や災害救援、まちづくりなど多岐に亘っており、非営利ではあっても無償ではない事業型NPOやコミュニティ・ビジネスも増えている。本講義では、そのようなボランティアの変化や意義を、時代背景から読みとき、受講者自らも行動できるような素養・知識の修得を狙いとす。	
		生命倫理学	医の倫理について概説し、その特徴と限界を明らかにした上で、現代医療の礎をなす生命倫理の意義とその核をなす四原則について学習する。具体的には、当事者の権利の確立を記した倫理綱領について紹介し、インフォームド・コンセントやセカンド・オピニオンなどの重要事項について学習する。加えて、人工妊娠中絶や生殖補助医療などの生命の始まりをめぐる諸問題や、脳死や臓器移植などの生命の終わりをめぐる諸問題についても取り扱っていく。	
		ジェンダー論	「ジェンダー」は、生物学的な性差に付加された社会的・文化的性差のことであり、個人の生きづらさや多様な社会課題と深く関係しており、医療従事者として不可欠の視点である。授業では、ジェンダー概念の基礎や国内外の動向について学ぶとともに、家族・教育・労働・災害・暴力・メディアなどの具体的なテーマを通して、実践的な理解を深める。	
基礎科目	専門基礎	科学計算演習	薬学を学ぶ者にとって計算はきわめて重要であり、とくに薬剤師は病院や保険薬局において処方せんをもとに薬剤の量をすばやく計算することが要求される。そこで本演習では、薬学を学ぶ上で必要となる科学計算の技能を修得する。 (2 石川吉伸・⑩ 加藤絃一) (共同) 薬学を学ぶ上で必要となる科学計算について講義・演習を行う。	共同
		科学英語	Medical Scienceを中心に考え、さらに視野を化学・生物・数学・工学等の科学分野の英語へ広げ学習する。近年の科学技術の急速な発展に伴い、科学技術に関する英語の必要性はますます高まっている。そうしたニーズに対応する英語力の育成を目指す。第一に、そうした分野特有の専門用語の語彙を習得すること。さらに語彙の学習を基礎に、専門性の高い科学英語の理解ができる能力を養い、また専門分野において自分の考えを発信できる英語力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基本事項・薬学と社会	薬学入門Ⅰ (薬剤師の使命)	
		薬学入門Ⅱ (薬と病気の科学)	オムニバス方式・共同(一部)講義12時間演習4時間

薬学教育の概要と学習のあり方、薬剤師の使命として、医療人として、薬剤師の果たすべき役割、患者安全と薬害の防止、そして薬学の歴史と未来について学ぶ。また、薬剤師に求められる倫理観として、生命倫理、医療倫理、患者の権利、研究倫理を示す。信頼関係構築のためのコミュニケーションと患者・生活者の心身や多様な価値観を示す。さらに、他職種連携協働とチーム医療、生涯に渡り学習が必要であり、次世代を担う人材の育成の必要性を示す。

(概要) 薬剤師としての役割を果たすためには、医学、法律、倫理学など広範囲の知識について知る必要がある。日本における、医療制度、医療経済、医療安全などの医療における仕組みと、臨床・研究、倫理、薬害などの基礎的テーマを中心に学習する。さらに、以下の3つを中心にお互いに討論することで理解を深めることを目的とする。
①医療、特に医薬品と社会の関わりについて全体像を把握する。
②現在直面している医療の課題について自ら情報を収集し、将来どのように関わるか考える。
③様々な薬剤師の役割について理解し、将来どのような薬剤師を目指すか考える。

(オムニバス方式/全8回)

①鈴木勉/1回)
特別な管理を要する薬物等に係る法規範について講義を行う。

⑧古屋博行/4回)
薬剤師と医薬品等に係る法規範について講義を行う。

⑩加賀谷肇/1回)
地域における薬局と薬剤師について講義を行う。

①鈴木勉・⑧古屋博行・⑬佐野和美・⑩加賀谷肇/2回) (共同)
課題説明およびSGDによる演習等を行う。

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 基本事項・薬学と社会	早期臨床体験実習	<p>(概要) 薬学を学び、薬剤師及び薬学研究者の職域とその任務について理解し、モチベーションを高めることを目的とする。更に、以下の目標達成を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療と薬学の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における役割を理解し、薬剤師としての使命感を身につける。 2. 倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療にかかわる倫理観を身に付け、医療の担い手としての感性を養う。 3. 患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける。 4. 医療、福祉・行政・教育機関及び関連職種の連携の必要性を理解し、チームの一員としての在り方を身につける。 5. 生涯にわたって自ら学ぶことの必要性・重要性を理解し、習得した知識・技能・態度を確実に次世代へ継承する意欲と行動力を身につける。 <p>そのため、オリエンテーションにて見学に関する注意点を指導後、各施設にて見学実習を行う。小グループに分かれて様々な施設を見学し、見学終了後、薬剤師が医療の分野において、どのような立場でその責任を果たしているか、その意義を学生同士で討議(SGD)を行いその結果を発表する。</p> <p>(⑬ 佐野和美) 実習に係る進め方の説明、発表の取りまとめ等トータルコーディネートを行う。</p> <p>(①鈴木勉・②石橋芳雄・④坂本芳雄・⑤塩田清二・⑥定本清美・⑧古屋博行・⑮山崎泰広・⑯市丸嘉・⑰加藤紘一・⑱殿山泰弘・⑲中橋奨・28須藤遥・⑳加賀谷肇・㉑加藤裕久) (共同) 施設見学、SGDによる演習等に係るサポートを行う。</p>	共同
	生命・医療倫理学	<p>医療者は患者の生命を預かるという意味において、通常よりもはるかに高い倫理観が求められる。薬は苦痛や病気の症状を鎮めるという点では患者に善をなす一方、処方間違いや薬に対する無知は、たちまち患者に危害を加える毒となりうる。したがって、根拠に基づいた安全性が確保されつつ、患者への丁寧な説明を行うことによって信頼関係を築き、安心な医療を提供することが求められる。そのためには患者を理解し、多角的な視点から物事を判断することが大切である。</p> <p>本講義では、医の倫理とその歴史を踏まえた上で医療者のあるべき姿を学び、現代医療の根幹をなす生命倫理・医療倫理の基本原則や守るべき心得・法律等の基本的諸事項を丁寧に扱う。生命の始まりや終わりをめぐる諸問題や薬害の事例についても幅広く取り上げ、臨床現場で活かせる倫理を展開していく。薬剤師の臨床訪問の機会も増えているので、患者とのコミュニケーションについても扱う予定である。</p>	講義26時間 演習4時間
	臨床心理学	<p>臨床心理学という分野について基本的な概要を解説し、そして臨床場面で実際に役立つ各種実習を組み合わせながら受動的ではなく能動的に学ぶことができるように授業を展開していく。具体的には、コミュニケーションに関する実習、臨床的アセスメント法の実習である。</p>	
	薬事関係法規・薬事制度	<p>薬剤師が、専門性を発揮し社会のなかで活動していくためには様々な法律が関わっている。この講義では該当する法律について、具体的な事例を交えるなどして、知識を習得し、理解を深めつことにより、一人前の薬剤師として社会の模範となるよう育成を行っていく。併せて、法令順守の精神と高い倫理規定を身につけていく。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基本事項・薬学と社会 専門科目	薬剤経済学	近年、国民医療費の増大、公的医療保険制度の維持が課題となっており、薬価制度改革が求められている。海外では、新薬の費用対効果を評価しその結果に応じて保険収載の可否や償還価格が調整・決定されて来ている。本邦でもこの手法が取り入れられ始めていることからこれらについて学ぶことは将来的に重要と考える。	
	後期臨床体験実習	急性期の専門的な医療部門においては、医師、薬剤師など医療人の協力体制が欠かせない。また高齢化社会の進行に伴い、急性期、亜急性期、慢性期の医療において医師の負担を軽減しながら、円滑に薬物治療が継続できる事が必要である。専門的医療部門、様々な慢性期施設における体験を通して、必要なチーム医療と薬剤師の役割、薬物治療の工夫などについて、具体的に理解する。複雑な処方や服薬補助が必要な際の薬剤師の役割を考察する。 (⑥ 定本清美) 実習に係る進め方の説明、発表の取りまとめ等トータルコーディネーターを行う。 (①鈴木勉・②石橋芳雄・④坂本芳雄・⑧古屋博行・⑬佐野和美・⑮山崎泰広・⑯市丸嘉・⑰加藤紘一・⑱殿山泰弘・⑲中橋奨・⑳加賀谷肇・㉑加藤裕久・㉒尾関あゆみ) 施設見学、SGDによる演習等に係るサポートを行う。	共同
	日本薬局方	(概要) 日本薬局方は薬事法の規定に基づき厚生大臣が定める医薬品の規格書であり、医薬品の良否を見分けるため規格を設定し、その試験法を定めたものである。そこで本講義では、日本薬局方の定義および薬事法との関係、沿革、構成、記載項目、主な収載医薬品等基本的事項について学習する。続いて、薬局方中のすべての条項に適用される共通規約である通則、局方製剤全般にわたる規定を示した製剤通則と各種製剤の定義と規格および試験法を記載した各条から成る製剤総則、医薬品各条や製剤総則中に規定されている試験法のうち共通性の高いものを一括して記載したものである一般試験法、生薬総則・試験法について学習する。最後に、各種分析法についてについて学習する。 (オムニバス方式/全8回) (2 石川吉伸/4回) 日本薬局方概論、通則、確認試験、純度試験および各種分析法に関する基本的事項について講義を行う。 (⑪ 片川和明/1回) 生薬総則および試験法に関する基本的事項について講義を行う。 (⑬ 佐野和美/3回) 製剤総則および製剤試験法に関する基本的事項について講義を行う。	オムニバス方式
薬学基礎	化学系基礎科学	薬学を学ぶ上で必要となる化学の基礎力を身につけるため、原子・分子の成り立ちやそれらの性質に関する化学の基本的知識の習得を目指す。最初に原子、分子、イオンの基本的構造について学び、電子配置と周期表、電子の粒子性と波動性、量子論の考え方と軌道についての知識を習得する。次に有機化学を学ぶ上で重要となる、分子のルイス式、原子荷電子対反発法、混成軌道、ファンデルワールス力や水素結合などの分子間力の理解を深め、最後に、無機化合物や錯体の名称、構造、基本的な性質を学習し、医薬品として用いられている無機化合物や錯体についての知識を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	薬 学 基 礎	化学系実習	<p>薬剤師を目指す上で器具を正しく扱い、ものをはかり、溶液を調製する手法は、必ず習得しなければならない基礎技術の一つである。本実習では、種々のガラス器具や薬品などを用い、薬学実験の基礎技術を習得する。多くの医薬品、生体成分が有機化合物であるため、簡単な有機化合物の性質を理解し、構造式を見たときに、『化合物Aは水酸化ナトリウム水溶液にイオン形になって溶ける。』または『化合物Bは塩酸にイオン形になって溶ける。』と、見分けるすべを修得する。</p> <p>(8 栗原正明・15 東山公男・⑩ 市丸嘉・⑪ 中橋奨) (共同) 実習準備、実習講義、実習指導、レポートの評価、実習試験の作成と評価を行う。</p>	共同
		物理系基礎科学	<p>薬学を学ぶ上で必要となる物理化学的な基礎概念のうち、主に原子・分子という微視的(ミクロ)な立場からのものを習得させることを目的とする。また、光と物質の相互作用、放射化学の基礎についても習得させる。原子・分子について正しい見方をするためには、高校では学ばない量子力学の概念が必要となるので、数式をできるだけ用いずにそれを丁寧に解説した後、モデル・コアカリキュラムのうち化学結合に関するものを中心とした内容を講義する。</p>	
		物理化学 I	<p>様々な化学物質を扱う薬学においては、物質の状態や変化を定性的・定量的に理解することが不可欠である。本授業では、物質の状態、および自発的変化の方向性についての科学的取り扱いを実現するために必要な、熱力学の知識および技能を修得させることを目的とする。また、気体を例にして、物質を構成する原子・分子のレベルでの微視的(ミクロ)状態と、物質全体としての巨視的(マクロ)状態を結び付ける考え方を身につけさせる。</p>	
		分析化学 I	<p>分析化学は、化学成分の性質や種類を確認したり(定性分析)、量を決定する(定量分析)ための学問分野である。臨床現場では、医薬品などの量を正確、かつ、精密に測定し、そのデータを的確に判断することがたびたび要求される。そこで本講義では、最初に、化学平衡を考える上で基本となる酸・塩基平衡の概念について学ぶ。次に、酸・塩基平衡の考え方を拡張し、錯体・キレート生成平衡、沈殿平衡、酸化還元平衡、分配平衡について学ぶ。最後に、化学平衡論で身につけた知識を活用し、医薬品定量のための基礎分析法である中和滴定、非水滴定、キレート滴定、沈殿滴定、及び酸化還元滴定といった定量分析法について学ぶ。</p>	
		生物系基礎科学	<p>(概要) 生物の基本単位である細胞に焦点を絞り、その構造や機能、生体分子について学修する。さらに、医療薬学を学ぶ上での生物学の重要性を認識し、研究マインドを身に付けるため、細胞の増殖異常により発生する「がん」を取り上げ、基礎生物学と医療薬学の両面から理解する。</p> <p>(オムニバス/全15回)</p> <p>(⑩石田洋一/14回) 核酸の構造と機能、遺伝子発現、細胞小器官、細胞の増殖と死、遺伝、遺伝子工学技術、がん治療薬の開発に関する講義を担当する。</p> <p>(28 須藤遥/1回) 石田が担当する講義と自身の臨床現場(大学病院)での経験を踏まえて、がん治療における基礎生物学の重要性について、症例を挙げながら解説する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	薬学基礎	生物系実習 (10 石田洋一) 実習講義、実習指導、評価を担当する。 (18 殿山泰弘) 実習準備、実習講義、実習指導、レポートの評価、実習試験の作成と評価を担当する。 (28 須藤遥) 実習準備と実習指導を担当する。	共同
		生化学Ⅰ (概要) 本講義では、タンパク質とその一種であり、様々な化学反応を触媒する酵素について、次に、三大栄養素の一つ、糖質がどのような酵素反応を経て代謝されるのかについて学修する。さらに、医療薬学を学ぶ上での生化学の重要性を認識し、研究マインドを身に付けるため、「糖尿病」について、生化学と医療薬学の両面から理解する。 (オムニバス/全15回) (10石田洋一/14回) アミノ酸・タンパク質の構造と機能、酵素、糖質とその代謝、シグナル伝達、糖尿病、糖尿病治療薬の開発に関する講義を担当する。 (28 須藤遥/1回) 石田が担当する講義と自身の臨床現場(大学病院)での経験を踏まえて、糖尿病治療における基礎生物学の重要性について、症例を挙げながら解説する。	オムニバス方式
		解剖学 解剖学は生体の正常構造を研究する学問で医学系の基礎となる。薬剤師としての人体の成り立ちを本講義を通して、遺伝、発生、細胞、組織のミクロレベルから器官・器官系(神経系、骨格系、筋系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿・生殖器系、内分泌系、感覚器系)のマクロレベルの正常な形態と構造の理解を深めることにより、生理学の機能、生理解剖学実習につなげる知識を修得する。	
		物理化学Ⅱ 物理化学Ⅰでは、物質の変化の速さについては取り扱わなかった。本授業では、化学反応による変化の速さを取り扱う反応速度論の基礎事項を修得させることを目的とする。反応速度の表し方、反応次数、反応速度定数の決定法、半減期などの基礎事項を解説したのち、より複雑な複合反応や、薬学で特に重要となる懸濁液中での薬物分解について取り上げる。また、反応速度の温度依存性を表すアレニウス式について解説する。反応速度論は実用性が高いので、演習問題を多数交えながら進める。	

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	薬学基礎	分析化学Ⅱ (概要) 分析化学の目的は、なにが、どのくらい、どのような状態で存在しているかを明らかにすることである。定性分析や定量分析においては分析対象成分に適した測定機器を使用する必要があるが、その際には測定機器のなりたちと測定原理を理解していることが前提となる。また、分析対象成分は多成分であることも多く、単一成分の定性・定量分析を行うためには成分の分離を行う必要があり、その原理の理解も欠かせない。そこで本講義では、最初に、物質と光(電磁波)の相互作用を利用した測定法である紫外可視吸光度測定法や赤外吸収(IR)スペクトル測定法などの分光分析法について学ぶ。次に、主に構造解析で用いられる核磁気共鳴(NMR)スペクトル測定法や質量分析法などを学ぶ。最後に、混合物試料から分析対象物質を分離する方法であるクロマトグラフィーや電気泳動といった分離分析法について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (2 石川吉伸/11回) 分光分析法と熱分析に関する基本的事項について講義を行う。 (⑩ 加藤統一/4回) クロマトグラフィーに関する基本的事項について講義を行う。	オムニバス方式
		分析化学実習 本実習では、薬学を学ぶ上で必要となる分析化学の基本的な技能を身につけることを主眼とする。最初に、試料中に存在する物質の種類および濃度を知るために、酸・塩基や酸化還元などの各種の化学平衡に基づいた定量法の基本的技能を修得する。次に、クロマトグラフィーといった分離分析法の技能を身につけ、医薬品を含む化学物質をその性質に基づいて分離・分析できるようにする。この分析法を通してバリデーションの考え方を身につけ、得られた分析データの評価方法を修得する。このように、本実習では用いる器具や機器の使用法を体得するとともに、定量原理についての理解を深めることを目指す。 (2 石川吉伸・⑩ 加藤統一) (共同) 実習準備、実習講義、実習指導、レポートの評価、実習試験と評価を行う。	共同
		有機化学Ⅰ 最初に基本的な有機化合物の構造、物性、反応性を理解するために、化学の共通言語となる命名法・電子配置・立体構造などに関する基本的事項を修得する。次に、医薬品のほとんどが有機化合物であり、生体内の酵素や受容体と三次元的に相互作用して薬理活性を発現することから、有機化合物の形、すなわち三次元構造についてその表し方についてアルカンを通して修得し、さらに、多くの医薬品に含まれるベンゼン環などの芳香環が有する特異的な性質を理解するために、「芳香族性」について修得する。最後に、具体的な有機反応の中から付加反応について、アルケンに対するハロゲン化水素やハロゲンの付加について、反応がどのように進行するかを学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 薬学基礎	生化学Ⅱ	<p>(概要) 本講義では、まず、酵素に関する発展的な内容として、反応速度論と阻害剤の影響について、次に、糖質と同様、三大栄養素の一つである脂質の代謝機構について学修する。さらに、医療薬学を学ぶ上で生化学の重要性を認識し、研究マインドを身に付けるため、「脂質異常症」について、生化学と医療薬学の両面から理解する。</p> <p>(オムニバス/全15回)</p> <p>(⑩石田洋一/14回) 酵素の反応速度論と阻害剤の影響、脂質とその代謝、脂質異常症、遺伝子工学技術に関する講義を担当する。</p> <p>(28 須藤遥/1回) 石田が担当する講義と自身の臨床現場(大学病院)での経験を踏まえて、脂質異常症治療における生化学の重要性について、症例を挙げながら解説する。</p>	オムニバス方式
	生化学実習	<p>本実習では、前半で、ヒトのゲノムDNAを用いてPCR法などの遺伝子解析を行い、遺伝子実験の基本的手法を修得する。後半は、タンパク質実験として、緑色蛍光タンパク質GFP発現大腸菌からのGFPの精製と酵素の反応速度論的解析を行うことにより、タンパク質実験の基本的手法を修得する。</p> <p>(⑩石田洋一) 実習講義、実習指導、レポートの評価、実習試験の作成と評価を担当する。</p> <p>(⑱ 殿山泰弘) 実習準備、実習講義、実習指導、評価を担当する。</p> <p>(28 須藤遥) 実習準備と実習指導を担当する。</p>	共同
	生理学	<p>(概要) 生理学は解剖学とともに人体の正常な構造と機能を研究する学問で医学系の基礎となる。また、人体において機能と構造は生命を維持するために重要な役割をはたし、薬の作用機序を理解するための基礎的学問である。生理学では、解剖学で修得した知識を基盤に、各器官系(神経系、感覚器系、筋系、消化器系、内分泌系、循環器系、泌尿器系など)の機能についての正常な基礎知識の修得をする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (⑤塩田清二/5回) 神経系、感覚器系、筋系の生理に関する基本的事項について講義を行う。</p> <p>(⑮ 山崎泰広/9回) 消化器系、内分泌系、循環器系、泌尿器系の生理に関する基本的事項について講義を行う。</p> <p>(⑤塩田清二・⑮ 山崎泰広/1回) (共同) 呼吸器の生理に関する基本的事項について講義を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 薬学基礎	微生物学 I	(概要) 微生物学が対象とする疾病は感染症である。感染の成立は、生体に侵入し定着・増殖しようとする微生物側の要因と、これを排除しようとする宿主側の防御機構との相互作用に依存する。微生物学Iでは、総論として微生物の基礎的性状、分類の基礎、構造と機能、病原性発現機構等について基本的知識を修得する。また、感染症の治療に用いられる抗菌薬について作用メカニズムを中心に修得する。 (オムニバス方式/全15回) (②石橋芳雄/8回) 微生物の性状、分類、構造と機能および病原性に関する基本的事項について講義を行う。 (7 木村聡一郎/7回) 感染症とその制御、および感染症治療薬に関する基本的事項について講義を行う。	オムニバス方式
	物理化学Ⅲ	本授業では、2年前期までに修得した物理化学の基礎知識に基づき、相平衡、溶液の性質、電気化学、分光法など、より応用的な物理化学についての知識を修得させることを目的とする。これらは、物理化学の薬学への応用において特に重要となる内容であり、他の科目(薬剤学や分析化学)とつながる部分も多い。薬学領域の特徴として、電解質溶液を必然的に取り扱うということがあるが、溶液論は難解な部分が多いため、コマ数を割いて解説する。	
	物理化学実習	実習により、物理化学系講義で学んできた概念の理解を深め、知識の定着を図る。具体的には、凝固点降下法によるスクロースの分子量決定、水-フェノール系相互溶解度曲線の作成、旋光度測定による濃度・光学純度の決定、酸触媒によるスクロース加水分解反応の速度定数の決定、分子モデリングソフトウェアSpartanを用いた分子構造の3次元的図示、分子軌道の表示、および分子振動のアニメーションを行う。 (14 高橋央宜・⑩加藤紘一) (共同) 実習準備、実習講義、実習指導、レポートの評価、実習試験と評価を行う。	共同
	有機化学Ⅱ	基本的な有機化合物の構造、物性、反応性を理解するために、最初に有機化合物の代表として脂肪族化合物であるハロアルカンを反応基質とした求核置換反応と脱離反応について学ぶ。次に、有機反応の基本となる酸・塩基の強さの概念を習得した後、有機化合物の他方の代表としての芳香族化合物であるベンゼンに対するハロゲン化やニトロ化などの芳香族求電子置換反応を学ぶ。最後に、アルケン及びアルキンに対する水和反応(付加反応)に焦点をあてて解説するとともに、医薬品の中に多く見られる構造であるアルコール・フェノール・エーテル類について、その性質、反応性、合成法に関する基本的事項の理解を深める。	
	有機化学実習	有機化合物の取り扱い、基本的な性質を理解する。医薬品の合成についての基礎技術を習得する。局所麻酔薬であるp-アミノ安息香酸エチルの合成を計画し、それに従って合成する。自分が合成したサンプルに局所麻酔作用があるかなど、確認試験を行うことによって合成法を修得する。構造解析の手法の理解と基礎技術を習得する。 (8 栗原正明・15 東山公男・⑩ 市丸嘉・⑩ 中橋奨) (共同) 実習準備、実習講義、実習指導、レポートの評価、実習試験の作成と評価を行う。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	薬 学 基 礎	天然薬物学	現在用いられている医薬品の多くは、天然に産出される有機化合物を利用、発展させたものと言っても過言ではない。本科目はいわゆる生薬学と天然物化学に対応している。まず生薬基原植物の形態学を学んだ後、天然生物活性物質の化学構造的特徴と、主要な生合成経路について概説する。次に生薬について、その基原、性状、含有成分と生理作用、および確認試験について学ぶことで、漢方処方理解につながる基礎力を築く。このうち、天然生物活性物質の化学構造に焦点をあて、構造決定法、化学構造の特徴と生物活性を生合成経路の詳細とともに学ぶ。また天然生物活性化合物をリードとした医薬品開発についても概説する。本科目を通して、化学系科目、生物系科目、物理系科目のつながりを体感させる。	
		生化学Ⅲ	(概要) 本講義では、アミノ酸代謝とヌクレオチド代謝について学修する。次に、近年、様々な疾患で発症や病態進展に関わっている「酸化ストレス」について学修する。医療薬学を学ぶ上での生化学の重要性を認識し、研究マインドを養成するため、アミノ酸代謝物関連疾患として「尿毒症」、ヌクレオチド代謝物関連疾患として「痛風」、そして酸化ストレス関連疾患として「慢性閉塞性肺疾患 COPD」と「糖尿病」について、生化学と医療薬学の両面から理解する。 (オムニバス/全15回) (◎石田洋一/14回) アミノ酸代謝、尿毒症、ヌクレオチド代謝、高尿酸血症・痛風、酸化ストレスと疾患、酸化ストレス性疾患治療薬に関する講義を担当する。 (28 須藤遥/1回) 石田が担当する講義と自身の臨床現場(大学病院)での経験を踏まえて、痛風治療における生化学の重要性について、症例を挙げながら解説する。	オムニバス方式
		生理解剖学実習	生理解剖学実習は解剖学講義と生理学講義で修得した知識を基に実習を行い、人体構造を組織学的構造から肉眼的構造およびそれぞれの組織・器官の機能のを学び、これまでの総合的知識の統合と応用を修得する。 (◎塩田清二・◎山崎泰広/7回) (共同) 実習準備、実習講義、実習指導、レポートの評価、実習試験の作成と評価を行う。 (◎塩田清二・◎山崎泰広・118 萩原康夫/1回) (共同) ラット解剖について、実習準備、実習講義、実習指導、レポートの評価、実習試験の作成と評価を行う。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	薬 学 基 礎	微生物学Ⅱ (概要)感染症の成立機序・病態に基づいた感染症の診断・治療・予防ができるようになるために、微生物学Ⅱでは、各論として主な感染症の原因となる細菌、真菌、原虫、蠕虫およびウイルスの微生物学的特性、病原体と生体の相互作用、及び化学療法薬の特性についての基礎知識を修得する。 (オムニバス方式/全14回) (②石橋芳雄/5回) 主要な細菌感染症について、その病原性、治療および予防に関する基本的事項について講義を行う。 (18 市川智恵/3回) 主要な真菌、原虫、蠕虫感染症について、その病原性、治療および予防に関する基本的事項について講義を行う。 (7 木村聡一郎/6回) 主要なウイルス感染症について、その病原性、治療および予防に関する基本的事項について講義を行う。 (②石橋芳雄・7 木村聡一郎・18 市川智恵/1回) (共同) 微生物感染症のまとめと質疑応答を行う。	オムニバス・共同 (一部)
		免疫学Ⅰ (概要)免疫系は、自己と非自己を識別し、非自己として認識された抗原を排除するための巧妙な生体防御系を備えている。免疫系に関わる細胞や組織とその役割、免疫系が多様な抗原を識別認識する方法、リンパ球が抗原特異的レセプターを持つに至る分化過程、病原体を排除するための免疫系のエフェクター機構、免疫応答が生体の中で統合されていく過程等についての免疫学的知識の基本を修得する。 (オムニバス方式/全15回) (②石橋芳雄/6回) 体液性免疫と細胞性免疫、免疫の誘導および免疫製剤に関する基本的事項について講義を行う。 (7 木村聡一郎/6回) 免疫の概念、自然免疫と感染防御および特異免疫に関する基本的事項について講義を行う。 (18 市川智恵/3回) 免疫グロブリンの構造と機能、抗原提示とリンパ球による抗原認識に関する基本的事項について講義を行う。	オムニバス方式
		分析化学Ⅲ (概要)分析化学Ⅰ、Ⅱに引き続き、分析化学の基礎理論およびその応用について学ぶ。本講義では特に、医薬品やその標的となる生体高分子の定性・定量に重要な生体試料の取り扱い、酵素活性測定法、免疫学的測定法などの各種分析法についての基本事項を修得する。また、臨床現場で欠かすことができないX線検査や超音波検査など生体組織の画像診断技術の原理、特徴についても学習する。 (オムニバス方式/全8回) (2 石川吉伸/1回) 画像診断法に関する基本的事項について講義を行う。 (⑩加藤統一/7回) 生物学・生化学的な分析法に関する基本的事項について講義を行う。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 薬学基礎	分析化学Ⅳ	天然あるいは化学合成から得られる物質の化学構造の決定は種々の機器分析法により行われる。また、物質の化学構造を把握することは、反応機構や生理活性を解明するうえで、必要不可欠な要素である。そこで本講義では、化学物質の構造決定において代表的な機器分析法である核磁気共鳴(NMR)、赤外吸収(IR)、質量分析(MS)による構造決定法について詳しく学ぶ。さらに、演習問題を通して代表的な機器分析法のスペクトルデータから代表的な化合物の化学構造を決定するための基礎的技能を習得する。	
	有機化学Ⅲ	基本的な有機化合物の構造、物性、反応性を理解するために、医薬品の構造中に数多く登場するカルボニル基とアミノ基に焦点を当てて学ぶ。最初にカルボニル基を有するアルデヒドおよびケトン類、カルボン酸およびカルボン酸誘導体の基本的な性質と反応性および合成法を学ぶ。次にアミノ基を有する化合物として、各種のアミン類の性質、反応性、合成法を学ぶ。また、芳香族ジアゾニウム塩が関与する芳香族求核置換反応、さらに、芳香族複素環化合物の構造と反応の理解を深める。最後に、生体反応の化学による理解を深めるために、生体内で起こる有機反応、および、医薬品に含まれる代表的な構造およびその性質を医薬品との相互作用と関連づけて学ぶ。	
	天然薬物学実習	カイカからルチンを単離し、定性試験とスペクトル解析を行うことで、天然生物活性物質の単離構造解析法を身につける。これとは別にカット生薬の性状観察と粉末生薬の確認試験を実施することで、生薬を鑑別する技能を習得する。また代表的な漢方処方である葛根湯の調製を通し、漢方薬がどのように服用されているかを体験する。 (⑩ 片川和明・26 江川大地) (共同) 実習準備、実習講義、実習指導、レポートの評価、実習試験の作成と評価を行う。	共同
	微生物学実習	病原微生物の検出や性状解析、微生物取り扱いのための基本的技能と態度を習得する。さらに抗菌薬に対する感受性試験を実施し、耐性機序も含めて実習を通じて理解する。応用面では、代表的な細菌および真菌の培養法と同定法を習得する。また、日本薬局方および衛生試験法に記載されている主な微生物試験法についても修得する。 (②石橋芳雄・7 木村聡一郎・18 市川智恵・⑩ 殿山泰弘・27 進藤綾大) (共同) 実習の進め方の説明や発表のとりまとめ等、微生物学に関する実習の実質的な指導を行う。	共同
	免疫学Ⅱ	(概要) 免疫系において重要なコンセプトは自己と非自己の識別であり、その仕組みが破綻することが様々な免疫疾患につながっている。本講義では先天性免疫不全症、アレルギー、自己免疫疾患、移植片拒絶、腫瘍免疫、予防接種等の臨床免疫学の基本的事項を修得する。 (オムニバス方式/全8回) (②石橋芳雄/5回) 先天性免疫不全症、アレルギーおよびワクチンに関する基本的事項について講義を行う。 (18 市川智恵/3回) 自己免疫疾患、移植片拒絶および腫瘍免疫に関する基本的事項について講義を行う。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 薬学基礎	生化学Ⅳ	(概要) 現代の医療は、遺伝子組換え技術によって支えられており、この技術を用いて製造するバイオ医薬品は、様々な疾患に対して適用されている。iPS細胞などを用いて病変部を回復させる再生医療も、今後著しい発展が見込まれている。本講義では、これまでに学んだ生物学・生化学の知識を基礎にして、医療薬学分野で非常に重要な地位を占めているバイオ医薬品と再生医療について、生物学的視点から学修する。 (オムニバス/全8回) (⑩石田洋一/7回) 抗体医薬品などのバイオ医薬品とiPS細胞などを用いた再生医療に関する講義を担当する。 (28 須藤遥/1回) 石田が担当する講義と自身の臨床現場(大学病院)での経験を踏まえて、バイオ医薬品と再生医療における薬剤師の役割と生化学の重要性について、症例を挙げながら解説する。	オムニバス方式
	アドバンスド生物化学	本講義では、これまで学んだ生物学・生化学の知識を基にして、研究マインドを身に付けることを目標にする。生物学の歴史上、大発見との評価を得ている学術論文を2報選び、論文を読み進めながら、研究において論文を読むことの意義(楽しさ)、生物学的研究手法の原理、生物学の現場で実際に研究(実験)がどのように進められているのかについて学修することを通して、生物学がいかに魅力的な学問であるかを理解する。	
	化粧品科学	化粧品科学では、三部に分けて化粧品の歴史、研究、有用性や安全性評価、化粧品関連法規等について習得する。第一部では、化粧品の歴史と日本を含めたグローバル関連法規、第二部では、皮膚生理、化粧品原料、及び敏感肌向け化粧品や特定の目的を持つ化粧品の分類比較。第三部では、医療や福祉場面での使用を想定した、化粧品新規アイデアをチーム制で取り組む。最終的に、化粧品の将来性を見据え、特定の商品だけでなく、幅広い分野にその知識を発揮できる能力を身に付けることをGoalとする。	
	腫瘍生物学	(概要) 悪性新生物に関する基礎的概念を修得し、臨床における病態時に対応できる応用力を身に付ける。また、がん薬物治療・非薬物治療を理解し、新規の薬物治療のアイデアを発想するために必要な基本事項を修得する。 (オムニバス方式/全8回) (⑬ 佐野和美 /6回) 分子標的薬の発展とがん免疫療法について学び、がん細胞の薬剤耐性獲得機構の解明、新規バイオマーカーの探索に関わる研究について考える。 (⑳ 加賀谷肇 /2回) 最新のがん疼痛治療における緩和ケアの最新のあり方について、実例を通して考える。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	薬学基礎 感染制御学	<p>(概要) 感染症は全ての診療科で遭遇する疾患であるため、薬剤師の感染症治療に貢献する割合は大きい。また感染症発生時には多職種と連携して感染制御・対策に取り組む必要がある。このため様々な感染症を理解し、その治療法・感染制御法や抗菌薬適正使用支援チーム(AST)、インфекションコントロールチーム(ICT)としての活動などを理解することが重要となる。感染症治療の基本原則を修得した上で、遭遇する頻度の高い各種感染症を理解し、その感染対策、抗菌薬適正使用の方法を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(7 木村聡一郎/6回) 医療関連感染の概要、主要な感染症対策の実例と化学療法剤の抗菌薬適正使用に関する基本的事項について講義を行う。</p> <p>(18 市川智恵/2回) 感染症治療と感染対策に関する基本的事項について講義を行う。</p>	オムニバス方式
	放射化学	<p>薬学・医療の分野では、放射線や放射性同位元素が利用され、医薬品の開発、薬理作用の評価、診断、治療など多くの領域で利用されている。そのため本講義では、将来薬剤師になる学生に必要な放射線、放射性同位元素に関連した基本的な知識を修得することを目的とする。放射能・放射線の基礎となる放射壊変の種類や壊変法則、放射線の種類や放射線の物質との相互作用と減弱法則、さらに、医療現場でも重要となる放射線の管理と安全な取扱い、防護法を理解した上で、放射性医薬品・診断薬、放射線を利用した診断法を学修する。</p>	
	衛生薬学 機能食品学	<p>食物は、生命を維持するためのエネルギー源としての機能(一次機能)や、美味しさや快感などの嗜好性をもたらす機能(二次機能)だけではなく、更には生体防御、疾病の予防・回復および老化抑制など、健康増進に関わる機能(三次機能)を潜在的に有している。この第3の機能は、古来の“薬食同源”の考え方を科学的に解明して受け入れているもので、薬学を学ぶ者にとっても「食品機能」の知識は必要不可欠からざるものである。そこで本講義では、食物が有する3種類の機能の中でも特に第3の機能として、免疫系、循環器系、神経系、内分泌系および消化器系などに関与する機能について、個別の食品やその成分を中心に概説する。その際、単なる食品成分とその生理作用を記憶させるのではなく、食品化学をベースとして、生薬学、薬理学および臨床化学など、機能性食品に直接的に関与する学問との相互関連性を感じ取り、更には、食品衛生や食品分析化学など、実社会分野、すなわちレギュラトリーサイエンスで、この機能食品学がどのように展開されているのかなど、周辺の最新状況も含めて機能食品学の果たしている役割・問題点を学び、今後の展望を考察することを目標とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 衛生薬学	衛生化学Ⅰ	<p>(概要) 衛生化学Ⅰでは、化学物質の毒性や環境衛生に関する基本的な知識を修得することを目的とする。食品や環境中に存在する化学物質や発がん物質の毒性やその毒性発生機構(特に体内動態や代謝活性化)、量との関係、防御法、解毒処置法など化学物質による健康障害を防止するために必要な考え方と基本的事項を学習する。さらに、生態系や生活環境を保全・維持するために、それらに影響を及ぼす自然現象や人為的活動について学ぶ。地球環境や公害、環境汚染物質などの成因、生体への影響、汚染防止、汚染除去など環境衛生に関する基本も学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(12 加藤英明/10回) 化学物質の毒性、代謝、化学物質による発癌、化学物質の安全性・毒性の評価、化学物質による中毒とその解毒処置、薬物中毒とその検出法、放射線の生体への影響について講義を行う。</p> <p>(29 曾川甲子郎/5回) 地球環境と生態系、環境汚染と公害、地球規模の環境問題の成因と対策、水環境、下水、水質汚濁指標、大気・室内環境、廃棄物について講義を行う。</p>	オムニバス方式
	医療統計学	<p>科学的根拠に基づく医療(EBM)を実践するためには、臨床試験などの原著論文及び三次資料を参照する必要がある。その理解には、生物統計学と臨床研究方法に関する知識が必須である。高学年で学ぶ「臨床研究デザインと解析」の基礎となることについてもふれる。</p>	講義14時間 演習2時間
	衛生化学Ⅱ	<p>(概要) 衛生化学Ⅱでは、衛生学の観点から栄養素、ビタミン、ミネラル、エネルギー代謝、食品成分など「食」に関しての基本的な知識を修得することを目的とする。化学的視点を背景に、病気を未然に防ぐための食生活、食品汚染や細菌やウイルス性の食中毒から身を守るための基本的な知識について学習する。栄養素とそれを含む食品を対象に、健康な体を作り維持する基本となる「食」の原理と安全性に必要な知識についてその法規制等も含めて学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(12 加藤英明/10回) エネルギー代謝と栄養価、食事摂取基準と栄養障害、栄養療法、食品成分の変質、食品添加物、特別用途食品・保健機能食品、遺伝子組換え食品、食中毒、化学物質による食品汚染について講義を行う。</p> <p>(29 曾川甲子郎/5回) 栄養素の構造と役割、栄養素の消化・吸収・代謝とその他の成分について講義を行う。</p>	オムニバス方式
	衛生化学実習	<p>衛生化学は、健康維持と疫学予防を目的とする総合的な学問領域である。その対象は人をとりまく環境中に存在する化学物質や食に関するものなど多岐にわたる。本実習では、薬学部生が衛生化学の本質を理解できるような重点項目に焦点を絞り、食品成分、食品添加物、水質および空気環境に関連した実験・試験法を把握し、その原理や手技を修得するなかで衛生化学的な意義を理解することを目的とする。さらに、衛生薬学、公衆衛生のトピックスについて調査やグループ討議、プレゼンテーションも行わせることで自己研鑽・参加型学習によって衛生化学的な意義の理解をより深める。</p> <p>(12 加藤英明・29 曾川甲子郎) (共同) 実習準備、実習講義、実習指導、レポートの評価、実習試験の作成と評価を担当する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	衛生薬学	衛生化学Ⅲでは、人々の健康増進、公衆衛生の重要性を理解し、健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する目的で実施する保健統計と疫学に関する基本的な知識を修得することを目的とする。公衆衛生的な観点から健康の意味を理解するとともに、疾病の原因を把握して、その予防に貢献できるようになるために、感染症、生活習慣病、職業病などについての現状とその予防に関する基本的な知識について学習する。将来薬剤師になった際に必要な臨床研究デザインと解析についても学習する。	講義26時間 演習4時間
	医療薬学	薬理学という学問の概念を理解し、薬物・生理活性物質に関する基本的知識、薬物の作用機序を説明するための基本となる薬物受容体や細胞内シグナル伝達系、イオンチャネル、オータコイド、内分泌系分子について学習する。薬物と生体の関わりとして、自律神経系、体性神経系(知覚神経、運動神経)に作用する薬物、さらに、中枢神経系に作用する薬物(全身麻酔薬、睡眠薬、鎮痛薬)それぞれの特性、作用点、作用メカニズムについて理解する。 (オムニバス方式/全15回) (16 船田正彦/8回) 薬理学総論として、神経伝達物質の役割および薬物が作用する仕組み(受容体、酵素、チャネル、トランスポーター)について講義を行う。また、自律神経系の調節としては、交感神経と副交感神経の機能とそれぞれの神経に作用する薬物の作用ならびに自律神経節作用薬について講義を行う。中枢神経作用薬概論として、中枢神経作用薬(麻酔薬、麻薬性鎮痛薬、統合失調症、うつ病、不安神経症、てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病、認知症、片頭痛)薬理作用と作用機序について講義を行う。 (21 池上大悟/7回) 知覚神経作用薬、運動神経作用薬、抗炎症薬、抗炎症薬、解熱性鎮痛薬、アレルギー治療薬、筋疾患に使用する薬物、悪心嘔吐およびめまいの治療薬に関する薬理作用と作用機序について講義を行う。	オムニバス方式
	薬理学Ⅱ	(概要)循環器系(心臓・血管)及び末梢系臓器(眼、血液、呼吸器系、消化器系など)に作用する薬物の臨床適用について理解するために、心臓・血管系及び末梢系臓器(眼、血液、呼吸器系、消化器系など)の制御機構を理解し、適応薬物の標的分子に対する作用機序を学習する。このことを通して、自律神経系(交感神経系と副交感神経系)の制御との相互作用を理解し、それらに影響を与える薬物の複合的な薬理作用を理解する。また、免疫・アレルギーを理解し、それらに作用する薬物を学習する。 (オムニバス方式/全15回) (16 船田正彦/4回) 医薬品の安全性に関する基本事項について講義を行う。 循環器に作用する薬、アレルギー治療薬に関する薬理作用と作用機序について講義を行う。 (18 市川智恵/1回) 感染症治療薬に関する薬理作用と作用機序について講義を行う。 (21 池上大悟/10回) 血液、泌尿器系、生殖系、呼吸器系、消化器系、目に作用する薬に関する基本事項について講義を行う。また、代謝系に作用する薬、ホルモンを調整する薬、抗悪性腫瘍薬に関する薬理作用と作用機序について講義を行う。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 医療薬学	薬物治療学 I	<p>(概要) 中枢神経系に作用する薬物を中心に、各疾病に対して適切な薬物療法が適用できるように、疾病の発症機序や病態、疾病に対する薬物療法の基礎的知識を修得する。中枢神経系の制御機構及び病態における制御の乱れを理解し、中枢系に作用する薬物と薬物標的分子との関連を学習する。また、神経系疾患、泌尿器機能疾患、生殖器機能疾患、代謝異常疾患、内分泌疾患に関連する治療薬の臨床適用の妥当性を理解するために、病態を理解し、治療薬物と薬物標的分子との関連を学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(16 船田正彦/6回) 病態発症を理解し、薬物による治療を効果的かつ安全に実施するための基本事項について講義を行う。精神疾患(不眠症、不安神経症、心身症、統合失調症、うつ病、疼痛)および神経系疾患(てんかん)の病態生理と薬物治療について講義を行う。</p> <p>(21 池上大悟/9回) 神経系疾患(パーキンソン病、アルツハイマー病、脳出血、多発性硬化症、筋委縮性側索硬化症)、泌尿器機能疾患、生殖器機能疾患、代謝異常疾患、内分泌疾患の病態生理と薬物治療について講義を行う。</p>	オムニバス方式
	薬理学実習	<p>(概要) 薬理学実習は、実験動物を通じて薬物の生体反応を観察することにより、薬理学に関連する講義で学んだ薬理作用とその作用機序、生理機能、および中毒作用等を確認することで、薬物作用の理解を深める。実験にはマウスを用い、オピオイド性鎮痛薬、抗けいれん薬、抗精神病薬等の中枢神経作用薬を投与して、その作用の発現について行動観察を行う。また、血圧測定を行い、自律神経に作用する薬物と循環器系機能調整機序について理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(21 池上大悟/1回) 実験動物の取り扱い方、薬物投与方法について実習指導を行う。</p> <p>(16 船田正彦/1回) 統計解析について実習指導を行う。</p> <p>(16 船田正彦・21 池上大悟・25 宇津美秋/6回)(共同) 実習準備、実習講義、実習指導、レポートの評価、実習試験の作成と評価を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	薬物動態学 I	<p>薬物の生体内運命を理解し、個々の患者の投与設計ができるようになるために、薬物の体内動態およびその解析に関する基本的知識を修得し、それらを応用する基本的技能を身につける。薬物動態の基礎的概念を理解するため、吸収、分布、代謝、排泄の各過程および薬物動態学的相互作用に関する基本的事項を修得する。また、薬物動態の理論的解析ならびに投与設計に関する基本的事項を修得する。</p>	講義24時間 演習6時間

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 医療薬学	薬剤学Ⅰ	<p>(概要) 物理学・物理化学を基盤とし「薬物と製剤材料の物性に関する基本事項を習得すること」を目標とする。最終目標は、実際患者が使用する「医薬品」の剤型をより良い状態で使用できるように、設計し、製造するために必要な知識を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑬ 佐野和美 /10回)</p> <p>半固形・液状材料の流動と変形(レオロジー)、高分子溶液の性質、分散系材料(分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など)の性質とその製剤的手法、薬物の安定性(反応速度など)、安定性に影響を与える因子および安定性を高める製剤学的手法について講義を行う。</p> <p>(36 小野塚真理 /5回)</p> <p>固形材料(結晶、非結晶および粉体)の溶解性に関わる要因と製剤的手法について講義を行う。</p>	オムニバス方式
	薬物治療学Ⅱ	<p>(概要) 免疫が関連する疾患は多様な病態、検査の特徴などを理解する必要がある。長期にわたり薬物治療が必要な疾患が多く、治療効果と副作用の配慮、患者の支援が必要なことを学ぶ。</p> <p>消化器疾患は頻度が高く、多様な疾患において臓器の特異性や検査値を理解した上で薬物治療の対象として重要であることを学ぶ。</p> <p>目、耳、皮膚などの感覚器疾患に関わる疾患の種類や、その診断に必要な知識、薬物治療の特徴を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑥ 定本清美/8回)</p> <p>アレルギー疾患、全身性の免疫・炎症疾患、自己免疫類似疾患および皮膚科疾患の病態生理と薬物治療について講義を行う。</p> <p>(33 佐藤淳也/7回)</p> <p>臓器移植と免疫、眼科領域の疾患、耳鼻咽喉科領域の疾患、消化器系疾患の病態生理と薬物治療について講義を行う。</p>	オムニバス方式
	薬物動態学Ⅱ	<p>(概要) 薬物治療に必要な情報を医療チームおよび患者に提供したり、処方設計を提案したり、臨床上の問題を解決できるようになるために、医薬品情報ならびに患者情報の収集、評価・加工・臨床研究デザイン・解析などに関する基本的知識を修得し、それらを活用するための基本的技能を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑬ 佐野和美 /13回)</p> <p>個別化医療のために考えるべき個人を特定する要因について考慮し、治療計画を立案する。種々薬物の体内動態(吸収・分布・代謝・排泄)について講義・演習を行う。</p> <p>(36 小野塚真理 /2回)</p> <p>薬物血中濃度を用いた薬物治療モニタリング(TDM)についての講義と、代表的な薬物のTDMの計算方法についての演習を行う。</p>	オムニバス方式 講義14時間 演習16時間

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 医療薬学	薬剤学Ⅱ	<p>(概要) 薬剤学Ⅰを基盤とし「製剤の種類、製造、品質などに関する基本的事項を習得し、更に薬物の投与形態や薬物体内動態の制御法などを工夫したDDSなどに関する基本的事項を習得する」ことを目標とする。最終目標は、個々の患者に合った適切な剤型・動態的特徴を有し薬物治療を提供することである。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑬ 佐野和美 /8回) 製剤化の意義と、代表的な各製剤の種類と特性、生物学的同等性、DDS、コントロールリリース、ターゲティング、吸収改善について講義を行う。</p> <p>(36 小野塚真理 /7回) 製剤工程、医薬品添加物、容器・包装、製剤試験法について講義を行う。</p>	オムニバス方式
	病理学概論	<p>(概要) 解剖学や生理学の講義で修得した基本的な構造と機能を基に、病気がどのような原因で起こるかを知り、それについて生体の反応、経過、転帰などの病的現象を組織および細胞レベルで学び、代表的な疾患についての臨床症状、経過、治療などの知識を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(④ 坂本芳雄/1回) 呼吸器系疾患の病理について講義を行う。</p> <p>(⑨ 若山恵/5回) 病理学総論について講義を行う。</p> <p>(50 喜多村健/1回) 感覚器系、皮膚系疾患の病理について講義を行う。</p> <p>(59 寺本明/2回) 内分泌系および神経系疾患の病理について講義を行う。</p> <p>(62 東館雅文/1回) 循環器系疾患の病理について講義を行う。</p> <p>(131 遠藤太刀男/2回) 自己免疫疾患および運動器系疾患の病理について講義を行う。</p> <p>(130 緑川武正/1回) 消化器系疾患の病理について講義を行う。</p> <p>(135 川地義雄/1回) 泌尿器系疾患の病理について講義を行う。</p> <p>(136 齋木美恵子/1回) 生殖器系疾患の病理について講義を行う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 医療薬学	症候・診断学	<p>(概要) 症例を提示し、兆候から身体所見の取り方、診断的プランと治療的プランを立てることを学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(④ 坂本芳雄/10回) 医療面接と現病歴聴取、循環器・呼吸器・消化器系の身体所見、呼吸器疾患患者、循環器疾患患者、膠原病患者、血液疾患患者、アレルギー疾患患者および感染症患者へのアプローチについて講義および演習を行う。</p> <p>(50 喜多村健/1回) 感覚器疾患患者へのアプローチについて講義および演習を行う。</p> <p>(59 寺本明/2回) バイタルサイン・神経・外観・リンパ節・頭頸部の身体所見、神経系疾患患者へのアプローチについて講義および演習を行う。</p> <p>(130 緑川武正/1回) 消化器疾患患者へのアプローチについて講義および演習を行う。</p> <p>(137 田口秀明/1回) 精神疾患患者へのアプローチについて講義および演習を行う。</p>	オムニバス方式 講義8時間 演習22時間
	処方解析演習	<p>代表的な疾患において、医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。さらに、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得する。患者の疾患・病態および薬剤の薬理・薬物動態を考え、選択された薬剤の妥当性および適正な投与量であるか検討する。演習形式で行う。</p> <p>(32 国分秀也) 感染症、緩和ケア、代謝系・内分泌系疾患、循環器疾患の処方解析演習の企画・編成・進行等トータルコーディネートをを行う。</p> <p>(33 佐藤淳也) がん、呼吸器系・免疫系疾患、中枢神経系疾患の処方解析演習の企画・編成・進行等トータルコーディネートをを行う。</p> <p>(①鈴木勉・④ 坂本芳雄・⑥ 定本清美・16 船田正彦・⑧ 古屋博行・⑫ 加藤英明・⑬ 佐野和美・25 宇津美秋・⑳ 加賀谷肇・㉑ 加藤裕久・㉒ 竹内尚子・36 小野塚真理・37 寺島朝子・㉓ 荒井幸子・㉔ 尾関あゆみ・39 細谷龍一郎・40 浦裕之・41 沖崎歩・42 田中怜) (共同) 演習の準備および学生指導等を行う。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 医療薬学	薬物治療学Ⅲ	<p>(概要)生活習慣病として医療の中で頻度が高く、治療や指導が重要視されている、糖尿病、脂質異常症などの代謝疾患、血圧異常や心疾患などの循環器疾患について学ぶ。これらの疾患の治療においては、疾患の理解を深める患者教育、生活指導、栄養指導などを基盤として、薬物治療が行われることを理解して、適切な薬物治療を他の分野の人と協力して行う必要性を学ぶ。</p> <p>基礎で学んだ解剖や生化学の知識を生かして、それぞれの疾患において薬の効き方を理解できるようにする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑥ 定本清美/5回) 糖尿病、脂質異常症の病態生理と薬物治療について講義を行う。</p> <p>(⑳ 荒井幸子/10回) 高血圧症、心不全、虚血性心疾患、不整脈およびその他の循環器系疾患の病態生理と薬物治療について講義を行う。</p>	オムニバス方式
	医薬品開発学	<p>医薬品の開発には、新規化合物や天然物のスクリーニング、毒性、薬理、吸収・分布・代謝・排泄、製剤等の非臨床試験を経て、ヒトを対象とした臨床試験の実施が必要である。臨床試験で有効性及び安全性が検証され、申請により厚生労働大臣の承認が得られれば新医薬品として認められる。レギュラトリーサイエンスの基礎となる。</p>	
	医療安全管理	<p>米国IOMが「人は誰でも間違える」と題する報告書を公表してから、医療事故が起きにくいシステム作りが導入されている。医療事故に対するこれまでリスクマネジメントについて学習し、さらに、事故事例の分析を通してその原因や要因を考察、医療事故予防対策のあり方について考える。</p>	
	創薬化学	<p>(概要)生体内の反応や医薬品と生体の相互作用を化学の視点で理解すると、医療現場における、単純な知識では解決できない問題に対して、医薬品の構造からアプローチできるようになる。そのためには、生化学や薬理学で学んだ知識と有機化学で学んだ知識を融合させる必要がある。この講義では、生体分子の構造と化学的な機能である反応性を理解するとともに、医薬品の化学構造と薬理作用との関連を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(8 栗原正明/6回) 医薬品の標的分子、医薬品と生体分子の相互作用、受容体に作用する医薬品およびコンピュータを用いた医薬品設計に関する基本事項について講義を行う。</p> <p>(⑩ 市丸嘉/2回) 酵素に作用する医薬品に関する基本事項について講義を行う。</p>	オムニバス方式
	医薬品情報学	<p>薬物治療に必要な情報を医療チームおよび患者に提供ならびに処方設計を提案、臨床上の問題が解決できるようになるために、医薬品情報ならびに患者情報の収集、評価、加工、臨床研究デザイン・解析などに関する基本的知識について学習する。そして、それらを活用するための基本的事項についても学習する。</p>	講義26時間 演習4時間

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 医療薬学	薬物治療学Ⅳ	<p>(概要) 感染症として治療を必要とする疾患について、対象となる病原体の種類やそれが関わる疾患の特色を学ぶ。 分野別に頻度の高い感染疾患について、基本的な知識を学び、病態や検査の特色と必要な薬物治療について学ぶ。 臨床薬学の観点から、社会的にも問題となる感染症について、予防やワクチンの基礎知識を学ぶとともに、地域や病院の中での感染対策の現状や、薬剤師の役割について理解を深めるようにする。多職種連携の重要性を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑥ 定本清美/3回) 感染症治療の総論、皮膚・軟部組織感染症の病態生理と薬物治療および院内感染防止対策について講義を行う。</p> <p>(32 国分秀也/2回) 感染症治療薬の薬理作用、機序、抗菌スペクトラム、主な副作用、相互作用、臨床適応および感染症治療薬の薬物動態学について講義を行う。</p> <p>(33 佐藤淳也/10回) 呼吸器感染症、消化器感染症、感覚器感染症、尿路感染症、性感染症、中枢神経感染症、心血管系感染症、全身性感染症、後天性免疫不全症候群(AIDS)の病態生理と薬物治療および生物学的製剤について講義を行う。</p>	オムニバス方式
	薬物治療学Ⅴ	<p>(概要) がんの病態を把握し、その病態に応じたがん化学療法、緩和ケアに関する最新の知見を学び、がん化学療法、緩和ケアにおける薬剤師の役割を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(④ 坂本芳雄/1回) 肺癌の薬物治療について講義を行う。</p> <p>(⑩ 加賀谷肇/2回) がん疼痛の分類・機序、痛みの評価、緩和ケアの基本とWHO方式がん疼痛治療法について講義を行う。</p> <p>(32 国分秀也/1回) オピオイド鎮痛薬の薬物動態学的特徴について講義を行う。</p> <p>(33 佐藤淳也/4回) がん化学療法総論および胃癌、食道癌、大腸癌、乳癌、生殖器癌の薬物治療について講義を行う。</p> <p>(⑫ 荒井幸子/2回) オピオイド鎮痛薬の薬理学的特徴と緩和ケアにおける症状管理、オピオイドの副作用とその対策について講義を行う。</p> <p>(⑭ 尾関あゆみ/2回) 鎮痛補助薬、薬物療法以外の疼痛治療法、緩和ケアチームの実際、患者・家族の教育について講義を行う。</p> <p>(42 田中怜/3回) 消化器系癌、造血器腫瘍、頭頸部癌、脳腫瘍の薬物治療について講義を行う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

（湘南医療大学薬学部医療薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
医療薬学 専門科目	漢方治療学	漢方医学は、古代中国医学を源流として本邦で発展した伝統医学である。本講義では下記の項目について学習する。 1) 漢方医学を含めた東洋医学の歴史 2) 東洋医学の学問体系：陰陽・五行、虚実、寒熱、表裏、気血水、臟腑、証、等の基本的概念。 3) 保険収載されている漢方薬（方剤）を構成する生薬を中心として、独特の生薬処理法、効能、生薬の配合理論。 4) 方剤学：方剤の剤型。効能別に解表剤、和解剤、表裏双解剤、温裏補陽剤、補気剤、補血剤、気血双補剤、理気剤、安神剤、利水剤、駆瘀血剤、滋陰剤、清熱剤、瀉下剤について系統的学習。 5) 漢方薬の副作用と使用上の注意点、西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などとの相違。 6) がん治療合併症を主題として漢方治療の臨床応用。	
	レギュラトリーサイエンス	医薬品の品質・有効性・安全性を確保するため、医薬品・医療機器等法に基づき、多くの規格、基準が設定され、行政施策が講じられている。これらの規制導入では、新技術や新物質が人間・社会に及ぼす影響を科学的評価に基づいて調整する（regulate）必要があり、そのための学問領域がレギュラトリーサイエンスである。	
	薬物治療学VI	（概要）薬物治療を適切に行うために、注意をしなければならない病態として、女性疾患、妊娠や出産に関わる周産期の状態、腎機能障害がある状態などについて、学ぶ。また、中毒に関わる様々な疾患や病態の理解と、その際に必要な治療や適切な指導などについて学ぶ。 薬物治療においては、その治療薬の効果や適応が、個々の患者の栄養状態に大きく関連している。薬物治療と同等に大切な栄養の管理や知識について学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） ⑥ 定本清美／8回 女性に特有な疾患、栄養と疾患について講義を行う。 ⑧ 古屋博行／3回 中毒性疾患の病態生理と薬物治療について講義を行う。 ⑬ 佐藤淳也／4回 腎機能低下時の薬物治療、組み替え体医薬品、薬物治療と遺伝的素因について講義を行う。	オムニバス方式
医療薬学チュートリアル演習I	社会が抱える事案を題材に、主にスモールグループディスカッション（SGD）の形式で、問題解決学習（PBL）を行う。日本が抱える多様な社会問題に目を向けて共有した後に、1つの社会問題に焦点を当て、グループごとに課題、課題解決の目的の明確化、目標設定、情報収集（調べもの）、課題解決の提案・具体化、プレゼンテーション（発表会）のプロセスを経て、最終的な解決策の提案（プロダクト）の作成を行う。また、同様のプロセスを経ながら、日本における少子高齢化社会に求められる医療・介護・福祉の形に目を向けたいうえて、地域における医薬品の適正使用に関する課題抽出から課題解決策の作成までを行う。 ⑳ 寺島朝子 課題説明、発表の取りまとめ等トータルコーディネートを担当する。 ①鈴木勉・②石橋芳雄・③塩田清二・④定本清美・⑤古屋博行・⑥若山恵・⑦佐野和美・⑧山崎泰広・⑨市丸嘉・⑩加藤紘一・⑪殿山泰弘・⑫進藤綾大・⑬須藤遥・⑭加賀谷肇・⑮加藤裕久 （共同） SGDによる演習等に係るサポートを行う。	共同	

授 業 科 目 の 概 要

（湘南医療大学薬学部医療薬学科）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	調剤学	<p>（概要）薬物療法の一環である調剤は、疾病治療に対する処方処方の妥当性の確認行為と薬剤学に立脚した技術的調製行為である。近年求められる薬剤師の姿として、医薬品の調製のみならず、医薬品の適正な薬学的管理指導によりアドヒアランス向上支援へと考え方が変わってきている。医療チームの一員として調剤を正確に実施し、医薬品適正使用に貢献できるように、処方せん授受から服薬指導・患者モニタリングまでの流れに関連する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>⑳ 加賀谷肇/4回 調剤の基礎、調剤の新しい概念、処方と調剤業務、医薬品管理の実際、処方意図の理解、処方解析、チーム医療への参画、地域連携などについて講義を行う。</p> <p>37 寺島朝子/9回 調剤の技術、医薬品の投与法、重篤副作用と早期発見、配合と併用、服薬指導（患者への情報提供）、剤形別調剤（注射剤）、患者モニタリングなどの調剤スキルを中心に講義を行う。</p> <p>39 細谷龍一郎/2回 剤形別の調剤（注射剤）無菌製剤、バイオハザードについて講義を行う。</p>	オムニバス方式
	実務実習事前学習Ⅰ	<p>本実習は、4年次の実務実習事前学習ⅡおよびⅢに先立って、薬剤師として病院や薬局などで薬剤師の職務を遂行するために必要な、基本的知識、技能、態度を修得する。内容は、実際に経験する実習と、それに必要な講義及び演習で構成される。実習や演習を通して、医療の担い手が守るべき規範や患者・生活者中心の医療の視点を身につけるとともに、基本的知識と体験を結びつけ、臨床現場における薬剤師の位置づけや役割を具体的なイメージを持って理解する。</p> <p>⑬ 佐野和美・⑳ 加賀谷肇 実習の企画・編成・進行等トータルコーディネートを行う。</p> <p>⑥ 定本清美・16 船田正彦・⑧ 古屋博行・⑫ 加藤英明・21 池上大悟・25 宇津美秋・㉑ 加藤裕久・32 国分秀也・33 佐藤淳也・36 小野塚真理・㉒ 竹内尚子・37 寺島朝子・㉓ 荒井幸子・㉔ 尾関あゆみ・39 細谷龍一郎・40 浦裕之・41 沖崎歩・42 田中怜（共同） 実習中の学生指導等を行う。</p>	共同
	看護論	<p>医療は医療関係職の協働によって提供され、その中で医師、歯科医師、薬剤師、看護職の歴史は古く、専門職としての役割機能を発揮してきた。近年、チーム医療が推進されているが、相互の専門職理解が重要である。そこで、看護学の変遷を概要し、看護論の理解を深める。看護実践では、科学的・主体的思考に基づく看護ケアが安全安楽できることが必要なので、看護ケアの具体例（投薬場面など）をもとに学習する。</p>	
	総合リハビリテーション論	<p>総合リハビリテーション論では、リハビリテーションの歴史と理念およびその仕組みなどについて教授する。具体的にはリハビリテーションの歴史、定義から始まり、障害の分類とICF、リハビリテーションチームの役割、障害の受容、各制度上の問題点などについて学習する。また、医学的、社会的、職業的、教育的、地域的なリハビリテーションについて学習する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 薬学臨床	実務実習事前学習Ⅱ	<p>実務実習事前学習ⅡおよびⅢは、5年次に行われる薬局実務実習、病院実務実習に先立って、大学内で調剤、無菌操作、服薬指導、医薬品の供給・管理、薬物療法に必要な情報の取扱いなど、薬剤師の職務を遂行するために必要な知識、技能、態度を修得する。実務実習事前学習Ⅱは、実務実習事前学習Ⅲで行う実践的なトレーニングに向けて、主に基礎・基本的な知識、技能の修得することを目的とする。内容は、実際に体験する実習と、それに必要な講義および演習で構成する。</p> <p>(13 佐野和美・20 加賀谷肇) (共同) 実習の企画・編成・進行等トータルコーディネートを行う。</p> <p>(6 定本清美・16 船田正彦・8 古屋博行・12 加藤英明・21 池上大悟・25 宇津美秋・21 加藤裕久・32 国分秀也・33 佐藤淳也・36 小野塚真理・22 竹内尚子・37 寺島朝子・23 荒井幸子・24 尾関あゆみ・39 細谷龍一郎・40 浦裕之・41 沖崎歩・42 田中怜) (共同) 実習中の学生指導等を行う。</p>	共同
	医療薬学チュートリアル演習Ⅱ	<p>(概要) 救急・災害医療、小児・周産期医療およびスポーツにおける薬物ドーピング等において、より専門性の高い薬学的知見に基づく薬剤師の積極的な関与が求められる。総合医療薬学概論では、救急・災害時および周産期・小児薬物治療における薬剤師の役割について学修し、また、スポーツにおける薬物の適正使用と薬物ドーピングの防止策についても学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(39 細谷龍一郎/8回) 救急・災害医療について講義・演習を行う。</p> <p>(102 石川洋一/5回) 小児・周産期医療について講義・演習を行う。</p> <p>(16 船田正彦、16 市丸嘉/2回) (共同) スポーツにおける薬物の適正使用と薬物ドーピングについて講義・演習を行う。</p>	オムニバス方式・ 共同(一部)
	臨床栄養学	<p>(概要) 健康維持や社会の高齢化にともなう健康長寿の妨げになるフレイルやサルコペニアなどの予防に対する栄養療法が注目されている。</p> <p>医療の中で栄養療法を行うに当たり薬剤師は必要不可欠な職種であり、栄養を科学的に理解するために、栄養療法の基礎知識を修得する必要がある。特に医薬品の処方を中心とした経静脈栄養療法や経腸栄養療法の栄養管理法の仕方や、病態に応じた栄養管理のための基礎および栄養摂取量の推定や栄養評価法や栄養指導等について学習する。</p> <p>また、地域医療の実践においても在宅栄養療法は重要で、薬剤師の無菌調製や患者やその家族が安心して在宅栄養療法を実施するための手技や管理方法なども学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(20 加賀谷肇/2回) 経静脈栄養および栄養管理について講義を行う。</p> <p>(101 飯田純一/6回) 臨床栄養概論、輸液療法の基礎、経腸栄養、臨床栄養応用および各種病態における栄養について講義を行う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 薬学臨床	実務実習事前学習Ⅲ	<p>実務実習事前学習ⅡおよびⅢは、5年次に行われる薬局実務実習、病院実務実習に先立って、大学内で調剤、無菌操作、服薬指導、医薬品の供給・管理、薬物療法に必要な情報の取扱いなど、薬剤師の職務を遂行するために必要な知識、技能、態度を修得する。実務実習事前学習Ⅲでは、実践的トレーニングを通して、実務実習事前学習Ⅱで学んだ基礎・基本的な知識、技能を確実に定着させるとともに、態度を育むことを目的とする。また、実習の後半では、薬学共用試験OSCEの受験に備えて、必要な技能と態度の修得を目指して繰り返し練習を行う。</p> <p>(13) 佐野和美・(20) 加賀谷肇 (共同) 実習の企画・編成・進行等トータルコーディネートを行う。</p> <p>(6) 定本清美・16 船田正彦・(8) 古屋博行・(12) 加藤英明・21 池上大悟・25 宇津美秋・(21) 加藤裕久・32 国分秀也・33 佐藤淳也・36 小野塚真理・(22) 竹内尚子・37 寺島朝子・(23) 荒井幸子・(24) 尾関あゆみ・39 細谷龍一郎・40 浦裕之・41 沖崎歩・42 田中怜 (共同) 実習中の学生指導等を行う。</p>	共同
	コミュニティーファーマシー	<p>コミュニティーファーマシー(地域薬局)のあり方を理解するために、薬局の役割や業務内容、医薬分業の意義、セルフメディケーションなどに関する基本的な知識と、それらを活用するための基本的態度を習得する。薬機法に定められた健康サポート薬局、地域連携薬局、専門医療機関連携薬局、それぞれの役割を理解する。また学校薬剤師や薬物乱用防止など地域保健に関わる活動や在宅介護などの福祉事業を通して住民のQOL向上に貢献するための薬剤師の役割を理解する。</p>	
	ファーマシーマネジメント論	<p>本科目では、米国で発展したPharmacy Managementの概念を、我が国の医療機関における薬剤部門(病院薬剤部)のマネジメントに置き換えて学習する。講義の内容は、医療を取り巻く環境の変化についてPEST分析の手法で分析し、実在の医療機関をモデルとして業界構造を5Forceなどのツールによって分析を行うことにより、当該地域における病院のポジショニングを考察する。そのうえで、当該医療機関における薬剤部門をマネジメントするための内部環境をSWOT分析、クロス分析で明確にし、これらの結果からバランススト・スコアカードにより薬剤部門のマネジメントを提案する。講義は座学以外にも実在する病院をモデルとしたケースメソッドを用い、SGDで結論を導き出せるようにする。特に、病院薬剤部門における経営資源をヒト・モノ・カネに加え、情報および技術の5つの視点から分析し、そこから導き出されるマネジメントの具体的な方法について提案できる水準の知識やスキルを身に付けることをゴールとする。</p>	
	薬局実務実習	<p>薬局の社会的役割と責任を理解し、地域医療に参画できるようになるために、保険調剤、医薬品などの供給・管理、情報提供、健康相談、医療機関や地域との関わりについての基本的な知識、技能、態度を修得する。</p> <p>(22) 竹内尚子 実習の企画・編成・進行等トータルコーディネートを行う。</p> <p>(2) 石川吉伸・(2) 石橋芳雄・7 木村聡一郎・8 栗原正明・14 高橋央宜・15 東山公男・(10) 石田洋一・18 市川智恵・(11) 片川和明・(15) 山崎泰広・(16) 市丸嘉・(17) 加藤紘一・(18) 殿山泰弘・(19) 中橋奨・26 江川大地・27 進藤綾大・28 須藤遥・41 沖崎歩 (共同) 実習の準備、施設との連携、実習中の学生指導等を担当する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 薬学臨床	病院実務実習	<p>病院薬剤師の業務と責任を理解し、チーム医療に参画できるようになるために、調剤および製剤、服薬指導などの薬剤師業務に関する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>(21 加藤裕久) 実習の企画・編成・進行等トータルコーディネートを行う。</p> <p>(4 坂本芳雄・6 定本清美・16 船田正彦・8 古屋博行・12 加藤英明・13 佐野和美・21 池上大悟・20 加賀谷肇・32 国分秀也・33 佐藤淳也・36 小野塚真理・37 寺島朝子・23 荒井幸子・24 尾関あゆみ・39 細谷龍一郎・40 浦裕之・41 沖崎歩・42 田中怜) (共同) 実習の準備、施設との連携、実習中の学生指導等を行う。</p> <p>(25 宇津美秋・29 曾川甲子郎) (共同) 施設との連携、実習中の学生指導等を担当する。</p>	共同
	地域包括医療論 (在宅医療を含む)	<p>高齢社会となり地域での医療体制は地域包括ケアシステムが整備されつつある。地域包括ケアシステムのなかでの薬局、薬剤師のあり方を理解するために、社会保障制度・介護保険制度、在宅チーム医療、服薬指導および服薬支援などに関する基本的な知識の習得と、それらを活用するための基本的な態度を習得する。</p> <p>また個人宅・施設別の服薬指導や服薬支援、認知症患者への対応を通して、高齢者医療に関する基本的な態度も習得する。</p>	
	セルフメディケーション	<p>セルフメディケーションを推進が図られている中、薬局薬剤師のあり方を理解するための、セルフメディケーションの意義、健康サポート薬局の役割、顧客とのカウンター業務、症候学、要指導医薬品・一般用医薬品、保健機能食品やサプリメントに関する基本的な知識の習得およびそれらを活用し地域住民の健康や疾病予防に貢献できる薬剤師になるための技能、態度を習得する。</p>	
	老年学	<p>老化の及ぼす身体の変化と疾患について講義し、老年病を包括的に理解し、その予防と治療およびその社会的な意義を知る。老年症候群、認知症、脳血管障害、うつ、心不全、末梢循環障害、老人性肺炎・誤嚥性肺炎、慢性閉塞性肺疾患、悪性腫瘍、変形性関節症、骨折、骨粗鬆症等の疫学・予後、病理・症候、評価・検査・診断、リハビリテーションとその他の治療について学習する。さらに睡眠障害、摂食・嚥下障害、感覚器障害、終末期のケア等についてあわせて学習する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	薬学総合プレ研究	<p>(概要)「薬学基礎」、「生命医科学」、「医療薬学」、「環境・社会薬学」の4研究学系から各々1研究室ずつ選択し、各研究室での研究実習を4クールに分けて順次行う。それぞれの分野の基礎的な実験方法を修得し、最先端の研究に触れる。この総合的な実習とおして、多彩な研究体験を積み、早い段階から研究に対する態度・意識を養う。併せて、専門分野の論文を読んで理解できる能力も培う。これは4年次での卒業研究Ⅰへとつながる研究活動への第一ステップとなる。</p> <p>「薬学基礎」 (14 高橋央宜) 薬品物理化学に関する研究指導を行う。 (2 石川吉伸・⑰ 加藤紘一) (共同) 薬品分析学に関する研究指導を行う。 (8 栗原正明・⑯ 市丸嘉) (共同) 薬化学に関する研究指導を行う。 (15 東山公男・⑱ 中楯奨) (共同) 薬品製造化学に関する研究指導を行う。 (⑩ 片川和明・26 江川大地) (共同) 天然物化学に関する研究指導を行う。 「生命医科学」 (② 石橋芳雄・18 市川智恵) (共同) 微生物・免疫学に関する研究指導を行う。 (7 木村聡一郎・27 進藤綾大) (共同) 感染制御学に関する研究指導を行う。 (⑤ 塩田清二・⑨ 若山恵・⑮ 山崎泰広) (共同) 機能形態・病理学に関する研究指導を行う。 (⑩ 石田洋一・⑱ 殿山泰弘・28 須藤遥) (共同) 生化学に関する研究指導を行う。 (④ 坂本芳雄) 臨床医学に関する研究指導を行う。 「医療薬学」 (① 鈴木勉・16 船田正彦・21 池上大悟・25 宇津美秋・32 国分秀也・⑳ 荒井幸子・㉔ 尾関あゆみ) (共同) 薬理学・臨床薬理学に関する研究指導を行う。 (33 佐藤淳也・42 田中怜) (共同) 薬物治療学に関する研究指導を行う。 (⑥ 定本清美・40 浦裕之) (共同) 疾病治療学に関する研究指導を行う (⑬ 佐野和美・36 小野塚真理) (共同) 薬物動態学に関する研究指導を行う。 (㉒ 加賀谷肇・37 寺島朝子・39 細谷龍一郎) (共同) 臨床薬剤学に関する研究指導を行う。 (㉑ 加藤裕久・41 沖崎歩) (共同) 医薬品情報解析学に関する研究指導を行う。 「環境・社会薬学」 (② 竹内尚子) 地域社会薬学に関する研究指導を行う。 (⑧ 古屋博行) 薬剤疫学・医療経済学に関する研究指導を行う。 (⑫ 加藤英明・29 曾川甲子郎) (共同) 環境衛生薬学に関する研究指導を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

（湘南医療大学薬学部医療薬学科）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	薬 学 研 究	<p>（概要）薬学の知識を総合的に理解し、医療、製薬、保健衛生の様々な分野で貢献するために、研究室に所属し、教員の指示を受けながら研究課題に取り組み、科学的根拠に基づいて問題を解決する姿勢を身につける。さらに、それを生涯にわたって高め続ける態度を養う。特に研究倫理を十分理解してから取り組むことが求められるため、自らが実施する研究に係る法令、指針について修得する。研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価する。課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。研究計画に沿って、意欲的に研究を実施し、研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。これら一連の研究活動を通して研究課題の達成までのプロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識・技能・態度を修得する。</p> <p>（14 高橋央宜） 薬品物理化学に関する研究指導を行う。 （2 石川吉伸・⑰ 加藤紘一）（共同） 薬品分析学に関する研究指導を行う。□ （8 栗原正明・⑯ 市丸嘉）（共同） 薬化学に関する研究指導を行う。 （15 東山公男・⑱ 中橋奨）（共同） 薬品製造化学に関する研究指導を行う。 （⑪ 片川和明・26 江川大地）（共同） 天然物化学に関する研究指導を行う （② 石橋芳雄・18 市川智恵）（共同） 微生物・免疫学に関する研究指導を行う （7 木村聡一郎・27 進藤綾大）（共同） 感染制御学に関する研究指導を行う。 （⑤ 塩田清二・⑨ 若山恵・⑬ 山崎泰広）（共同） 機能形態・病理学に関する研究指導を行う。 （⑩ 石田洋一・⑲ 殿山泰弘・28 須藤遥）（共同） 生化学に関する研究指導を行う。 （④ 坂本芳雄） 臨床医学に関する研究指導を行う。 （① 鈴木勉・16 船田正彦・21 池上大悟・25 宇津美秋・32 国分秀也・⑳ 荒井幸子・㉔ 尾関あゆみ）（共同） 薬理学・臨床薬理学に関する研究指導を行う。 （33 佐藤淳也・42 田中怜）（共同） 薬物治療学に関する研究指導を行う。 （⑥ 定本清美・40 浦裕之）（共同） 疾病治療学に関する研究指導を行う。 （⑬ 佐野和美・36 小野塚真理）（共同） 薬物動態学に関する研究指導を行う。 （㉑ 加賀谷肇・37 寺島朝子・39 細谷龍一郎）（共同） 臨床薬剤学に関する研究指導を行う。 （㉒ 加藤裕久・41 沖崎歩）（共同） 医薬品情報解析学に関する研究指導を行う。 （② 竹内尚子） 地域社会薬学に関する研究指導を行う。 （⑧ 古屋博行） 薬剤疫学・医療経済学に関する研究指導を行う。 （⑫ 加藤英明・29 曾川甲子郎）（共同） 環境衛生薬学に関する研究指導を行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	薬 学 研 究	<p>(概要) 卒業研究Ⅰに引き続き、薬学の知識を総合的に理解し医療、製薬、保健衛生の様々な分野で貢献するために、研究室に所属し教員の指示を受けながら、科学的根拠に基づいて問題を解決する姿勢を身につける。さらに、それを生涯にわたって高め続ける態度を養う。卒業研究Ⅰで取り組んだ研究課題を更に発展させ、研究活動に必要な、基本的理念、研究分野における研究論文の理解、および研究技能・態度を修得する。また、研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、研究成果を報告書や論文としてまとめる。また、学会発表や論文投稿を積極的に行う。</p> <p>(14 高橋央宜) 薬品物理化学に関する研究指導を行う。</p> <p>(2 石川吉伸・⑰ 加藤紘一) (共同) 薬品分析学に関する研究指導を行う。□</p> <p>(8 栗原正明・⑯ 市丸嘉) (共同) 薬化学に関する研究指導を行う。</p> <p>(15 東山公男・⑱ 中橋燮) (共同) 薬品製造化学に関する研究指導を行う。</p> <p>(⑪ 片川和明・26 江川大地) (共同) 天然物化学に関する研究指導を行う。</p> <p>(② 石橋芳雄・18 市川智恵) (共同) 微生物・免疫学に関する研究指導を行う。</p> <p>(7 木村聡一郎・27 進藤綾大) (共同) 感染制御学に関する研究指導を行う。</p> <p>(⑤ 塩田清二・⑨ 若山恵・⑮ 山崎泰広) (共同) 機能形態・病理学に関する研究指導を行う。</p> <p>(⑩ 石田洋一・⑲ 殿山泰弘・28 須藤遙) (共同) 生化学に関する研究指導を行う。</p> <p>(④ 坂本芳雄) 臨床医学に関する研究指導を行う。</p> <p>(① 鈴木勉・16 船田正彦・21 池上大悟・25 宇津美秋・32 国分秀也・⑳ 荒井幸子・㉔ 尾関あゆみ) (共同) 薬理学・臨床薬理学に関する研究指導を行う。</p> <p>(33 佐藤淳也・42 田中怜) (共同) 薬物治療学に関する研究指導を行う。</p> <p>(⑥ 定本清美・40 浦裕之) (共同) 疾病治療学に関する研究指導を行う。□</p> <p>(⑬ 佐野和美・36 小野塚真理) (共同) 薬物動態学に関する研究指導を行う。</p> <p>(㉑ 加賀谷肇・37 寺島朝子・39 細谷龍一郎) (共同) 臨床薬剤学に関する研究指導を行う。</p> <p>(㉒ 加藤裕久・41 沖崎歩) (共同) 医薬品情報解析学に関する研究指導を行う</p> <p>(㉓ 竹内尚子) 地域社会薬学に関する研究指導を行う。</p> <p>(⑧ 古屋博行) 薬剤疫学・医療経済学に関する研究指導を行う。</p> <p>(⑫ 加藤英明・29 曾川甲子郎) (共同) 環境衛生薬学に関する研究指導を行う。”</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要

(湘南医療大学薬学部医療薬学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	薬学研究 総合演習Ⅰ	<p>(概要) 医療薬学科教育課程の締めくくりとして、これまでに学んだ薬学の基本事項、薬学と社会、基礎薬学、衛生薬学領域の学習内容を総括し、優れた薬剤師として社会に貢献できるようになるための知識・技能を確認する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(122 星野仁/4回) 医薬品医療機器等法、薬剤師法、管理薬に関する規制、社会保障制度に関する基本的事項について講義・演習を行う。</p> <p>(14 高橋央宜/2回) 物質の物理的性質(物理平衡、物質の移動)に関する基本的事項について講義・演習を行う。</p> <p>(2 石川吉伸・⑩ 加藤紘一/2回)(共同) 化学物質の分析、核磁気共鳴スペクトル、質量分析法に関する基本的事項について講義・演習を行う。</p> <p>(8 栗原正明・15 東山公男・⑪ 片川和明・⑩ 市丸嘉・⑨ 中橋奨・26 江川大地/4回)(共同) 化学物質の性質と反応に関する基本的事項について講義・演習を行う。</p> <p>(⑤ 塩田清二・⑩ 石田洋一・⑮ 山崎泰広・⑯ 殿山泰弘・28 須藤遥/3回)(共同) 器官の構造と機能、細胞を構成する分子、遺伝子に関する基本的事項について講義・演習を行う。</p> <p>(② 石橋芳雄・7 木村聡一郎・18 市川智恵・27 進藤綾大/1回)(共同) 生体防御と微生物に関する基本的事項について講義・演習を行う。</p> <p>(⑫ 加藤英明・29 曾川甲子郎/4回)(共同) 栄養と健康、化学物質の生体への影響、生活環境と健康に関する基本的事項について講義・演習を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	薬学研究 総合演習Ⅱ	<p>(概要) 医療薬学科教育課程の締めくくりとして、これまでに学んだ臨床薬学および薬学全般にわたる学習内容を総括し、優れた薬剤師として社会に貢献できるようになるための知識・技能を確認する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(① 鈴木勉・16 船田正彦・21 池上大悟・25 宇津美秋・32 国分秀也/4回)(共同) 自律神経系に作用する薬、消化器系に作用する薬、循環器系に作用する薬、感染症と薬、悪性腫瘍と薬に関する基本的事項について講義・演習を行う。</p> <p>(⑬ 佐野和美・36 小野塚真理/4回)(共同) 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)、薬物動態の解析、製剤に関する基本的事項について講義・演習を行う。</p> <p>(⑥ 定本清美・33 佐藤淳也・40 浦裕之・42 田中怜/4回)(共同) 循環器疾患、腎臓・尿路の疾患、生殖器疾患、呼吸器・胸部の疾患、内分泌系疾患、代謝性疾患、悪性腫瘍に関する基本的事項について講義・演習を行う。</p> <p>(⑳ 加賀谷肇・㉑ 加藤裕久・37 寺島朝子・39 細谷龍一郎/4回)(共同) 処方せんの監査、疑義照会、調剤、医薬品管理、麻薬・覚せい剤、血液製剤、消毒剤に関する基本的事項について講義・演習を行う。</p> <p>(⑧ 古屋博行・㉒ 竹内尚子・㉓ 荒井幸子・㉔ 尾関あゆみ・41 沖崎歩/4回)(共同) 臨床課題と基礎課題との関連に関する基本的事項について講義・演習を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

（湘南医療大学薬学部医療薬学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	薬学研究	インターンシップ実習（課題解決型薬学研究・展開）	インターンシップ実習は、医療薬学を通して学んだことが将来ライフサイエンスの専門家として医療貢献ができる人材を育成するための教育活動の一つである。薬学臨床現場とその周辺の分野と大学で学んだことの結びつきについて学び、それぞれの分野の専門家とコンタクトするによりその職業、業務の専門性の理解を深めるための事前教育後に、インターンシップ実習を行う。 研修先での体験を通して、自己の職業適性や将来設計、主体的職業選択、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、就職後の職場への適応力および高い職業意識を養い、グループディスカッション、報告会でプレゼンテーションを行う。	

学校法人湘南ふれあい学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
湘南医療大学				湘南医療大学				
保健医療学部				保健医療学部				
3年次				3年次				
看護学科	80	10	340	看護学科	80	10	340	
リハビリテーション学科				リハビリテーション学科				
理学療法学専攻	40	—	160	理学療法学専攻	40	—	160	
作業療法学専攻	40	—	160	作業療法学専攻	40	—	160	
計	160	10	660	計	290	10	1440	薬学部の設置(認可申請)
湘南医療大学大学院				湘南医療大学大学院				
保健医療学研究科				保健医療学研究科				
保健医療学専攻(M)	12	—	24	保健医療学専攻(M)	12	—	24	
計	12	—	24	計	12	—	24	
茅ヶ崎看護専門学校				茅ヶ崎看護専門学校				
看護学科	80	—	240	看護学科	80	—	240	
計	80	—	240	計	80	—	240	
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校				茅ヶ崎リハビリテーション専門学校				
理学療法学科	70	—	280	理学療法学科	70	—	280	
作業療法学科	30	—	120	作業療法学科	30	—	120	
言語聴覚学科	35	—	70	言語聴覚学科	35	—	70	
計	135	—	470	計	135	—	470	
湘南医療大学附属下田看護専門学校				湘南医療大学附属下田看護専門学校				
看護学科	40	—	120	看護学科	40	—	120	
計	40	—	120	計	40	—	120	
医療ビジネス観光福祉専門学校				医療ビジネス観光福祉専門学校				
医療ビジネス学科	40	—	80	医療ビジネス学科	40	—	80	
観光学科	40	—	80	観光学科	40	—	80	
介護福祉学科	35	—	70	介護福祉学科	35	—	70	
計	115	—	230	計	115	—	230	